

第3期都留市男女共同推進計画策定のための 市民意識調査結果報告書

平成27年7月
地域環境課

目次

調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	2
2. 調査の方法.....	2
3. 集計・分析のための人口区分と地域区分.....	2
4. 調査項目.....	3
5. 回収結果.....	3
6. 報告書の見方.....	3
用語解説.....	5
調査結果.....	7
■回答者ご自身のことについて.....	8
ア. あなたの性別は。.....	8
イ. あなたの年齢は。.....	8
ウ. あなたのお住まいの地区は。.....	8
エ. あなたの主たる職業は何ですか。一番近いものをお答えください。.....	9
オ. あなたは結婚（事実婚含む）されていますか。.....	10
カ. あなたの家族構成は次のうちどれですか。.....	11
キ. あなたには、お子さんがいますか。.....	11
■男女の役割や家事・育児への取組について.....	12
問1. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。.....	12
問2. あなたが1日に行う家事（育児や介護を含む）の時間と、仕事（収入を得るための労働）の時間は、それぞれ平均どれ位ですか。.....	14
問3. あなたは「男女共同参画」について、どれくらい知っていますか。.....	16
■働き方などについて.....	17
問4. 【女性のみ回答】あなたはどのように生きていきたいとお考えですか（でしたか）。.....	17
問5. 【男性のみ回答】あなたの配偶者（妻）にはどのようなことを望みますか（ましたか）。... ..	20
問6. 女性が働き続けるためには、職場において何が必要だと思えますか。.....	22
問7. 男性が「育児休暇」や「介護休暇」を取得することについて、どう思いますか。.....	23
問8. 【男性のみ回答】（職場で出産・育児・介護に直面した状況を想定して）あなたは「育児休暇」または「介護休暇」を取得したいと思えますか（思ったことはありますか）。.....	24
■地域活動や仕事との関わりについて.....	26
問9. あなたは「ワーク・ライフ・バランス」について、どのくらい知っていますか。.....	26
問10. あなたは、現在、次にあげるような地域活動に、どれくらい参加していますか。.....	27
問11. 12. 仕事と、家庭生活または地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・つきあい等）との関わりについて、あなたの理想に一番近いものと、現在の状況は何ですか。.....	28
問13. 「ワーク・ライフ・バランス」の実現のために、行政にどのようなことを望みますか。	30

問 14. 現在、人口減少対策として、子育て世代の男女間の役割分担や働き方の改革が求められています。子育て世代が理想の子ども数を持てるようにするために必要なことは何だと思えますか。	32
■人権について.....	34
問 15. セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）、マタニティ・ハラスメント（マタハラ）またはパタニティ・ハラスメント（パタハラ）を受けたことはありますか。	34
問 16. あなたは夫婦間（事実婚含む）や恋人の間での、DV（ドメスティック・バイオレンス）について見聞きしたことがありますか。	35
■自由意見.....	37
問 17. 本調査のテーマについて他にご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。	37
参考資料	44
～第 6 次都留市長期総合計画策定のための市民意識調査結果報告書より～	44
問A. 次のような場面で、男女平等は実現されていると思えますか.....	45
問B. 男女共同参画社会を実現していくために、どのようなことを望みますか。	46

調査の概要

1. 調査の目的

平成28年度から平成38年度を計画期間とする「第3期都留市男女共同参画推進計画」の策定にあたり、現在本市が置かれている状況を的確に把握するため、また、「都留市男女共同参画推進計画～つるハートフルプラン～」の評価・検証に資するため、無作為に抽出した市民を対象とした意識調査を実施しました。

2. 調査の方法

- (1) 調査対象 無作為に抽出した20歳以上の市民（平成27年4月1日現在）
- (2) 対象者数 1,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布 郵送回収・直接回収
- (5) 調査期間 平成27年4月24日送付、5月8日締切

3. 集計・分析のための人口区分と地域区分

※平成22年国勢調査による男女別・地域別割合による。

男性	全体 100%	谷村 29.8%	三吉 6.9%	開地 6.4%	東桂 21.3%	宝 7.9%	禾生 23.2%	盛里 4.5%
20歳代	80	23	6	5	17	6	19	4
30歳代	72	21	5	5	15	6	17	3
40歳代	82	24	6	5	17	7	19	4
50歳代	83	24	6	5	18	7	19	4
60歳代	77	23	5	5	16	6	18	4
70歳代	55	16	4	4	12	4	12	3
80歳以上	31	9	2	2	7	2	7	2
合計（人）	480	140	34	31	102	38	111	24

女性	全体 100%	谷村 29.8%	三吉 6.9%	開地 6.4%	東桂 21.3%	宝 7.9%	禾生 23.2%	盛里 4.5%
20歳代	92	27	6	6	20	7	21	5
30歳代	69	21	5	4	15	5	16	3
40歳代	76	23	5	5	16	6	18	3
50歳代	79	24	5	5	17	6	18	4
60歳代	77	23	5	5	16	6	18	4
70歳代	69	21	5	4	15	5	16	3
80歳以上	58	17	4	4	12	5	13	3
合計（人）	520	156	35	33	111	40	120	25

地域名	住所
谷村地域	田原、上谷、川棚、中央、つる、下谷
三吉地域	法能、戸沢、玉川
開地地域	小野、大野
東桂地域	十日市場、桂町、夏狩、鹿留、境
宝地域	金井、中津森、大幡、厚原、平栗、加畑
禾生地域	四日市場、田野倉、小形山、井倉、大原、川茂、古川渡
盛里地域	盛里、朝日馬場、朝日曾雌、与縄

4. 調査項目

- (1) 回答者自身について
- (2) 男女の役割や家事・育児への取組について
- (3) 働き方について
- (4) 地域活動や仕事との関わりについて
- (5) 人権について
- (6) 自由記述

5. 回収結果

- (1) 有効発送数 1,000 票
- (2) 有効回収数 434 票 (標本数)
- (3) 有効回収率 43.4%

6. 報告書の見方

(1) 集計について

比率は、全て百分率で表しており、小数点第2位以下を四捨五入して算出しているため、比率の合計が必ずしも100.0%とならない場合があります。

(2) 回答数について

グラフにおける「n=100」という表記について、nは「ナンバー」の略で、100の回答数が得られたことを指します。

(3) 用語について

SA:「シングルアンサー」の略で、一人の人が一つの回答をしているものを指します。

MA:「マルチアンサー」の略で、一人の人が複数の回答をしているものを指します。

(4) 調査の信頼性（標本誤差）

アンケート調査は、全体（母集団）の中から数人（標本）を抜き出して結果を得る「標本調査」であるため、一定の範囲で誤差が出る可能性があります。この誤差率は、一般的に最大5%以下に収まることで回答に信頼性があると言われていています。今回のアンケートの回収数で、市民意見を反映させていると言えるかどうか、誤差を求める計算で算出をしました。

①誤差を求める計算式

信頼度 95%：100 回同じアンケートをした場合、95 回は同じ回答となること

【計算式】

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p \times (1-p)}{n}}$$

N：母集団（都留市のH27.4.1現在の20歳以上人口）25,621人
 n：標本数（回答者数）434人
 1.96：信頼度95%の信頼区間
 p：母比率（50%の時、誤差が最大となるため、50%を採用）

【試算結果】 誤差率 = 4.7%（5%以下なので、信頼性有り）

②各回答率の標本誤差

回答率（回答結果）	標本誤差
10%または90%	±1.9%
20%または80%	±2.5%
30%または70%	±2.9%
40%または60%	±3.1%
50%	±3.2%

【例示】上の表は、今回のアンケートで、ある質問に対して「はい」と回答した方が50%という結果が出た場合、都留市民全員に同じアンケートをした時には、「±3.2%」で、「46.8%～53.2%」の範囲内に回答が収まるであろうということになります。また、「はい」と回答した方が10%だった場合には、「±1.9%」で、「8.1%～11.9%」、また、90%の場合には同じく「±1.9%」で「88.1%～91.9%」に収まるであろうということになります。

用語解説

今回の報告書において挙げられている用語の解説です。

(1) 男女共同参画

男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができること。

(2) ワーク・ライフ・バランス

「仕事と生活の調和」と訳され、働く人が仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について自ら希望するバランスで展開できる状態のこと。

(3) セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)

職場などにおける性的な嫌がらせのこと。

(4) マタニティ・ハラスメント (マタハラ)

働く女性が妊娠・出産を理由として職場で受ける精神的・肉体的嫌がらせのこと。

(5) パタニティ・ハラスメント (パタハラ)

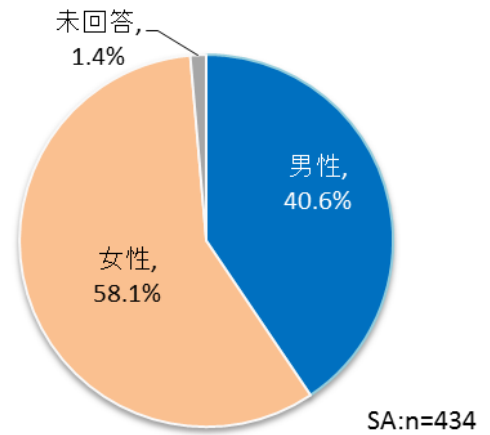
男性が育児参加する権利や機会を侵害する言動や嫌がらせのこと。

調査結果

■回答者ご自身のことについて

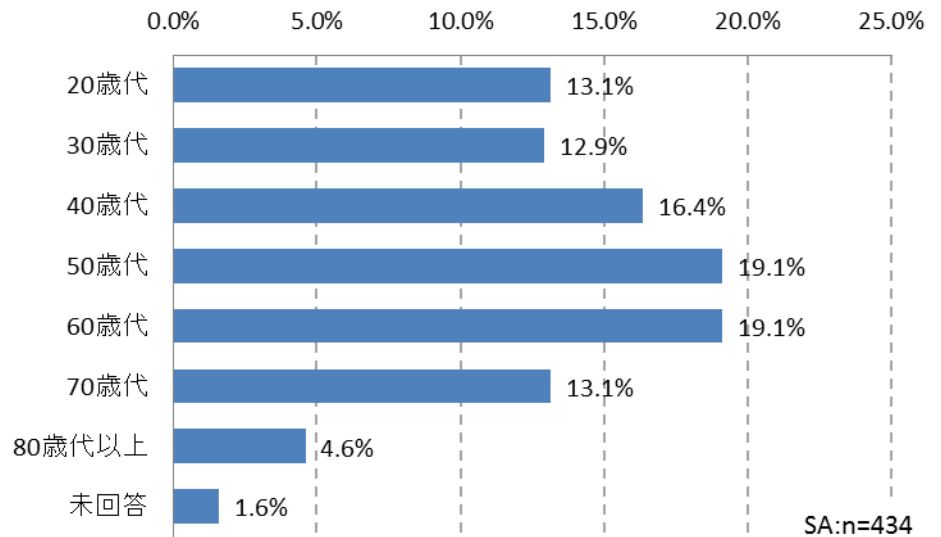
ア. あなたの性別は。

アンケート回答者の性別については、女性が58.1%、男性が40.6%と、女性の回答率が男性を17.5ポイント上回っています。



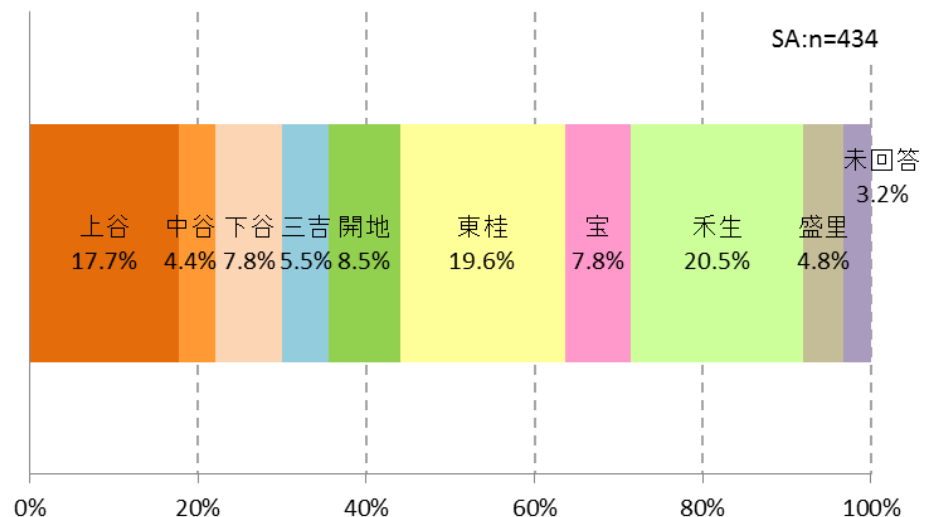
イ. あなたの年齢は。

年齢の内訳では、50歳代と60歳代の回答率（19.1%）が一番多く、次いで40歳代（16.4%）、20歳代と70歳代（13.1%）と続いています。

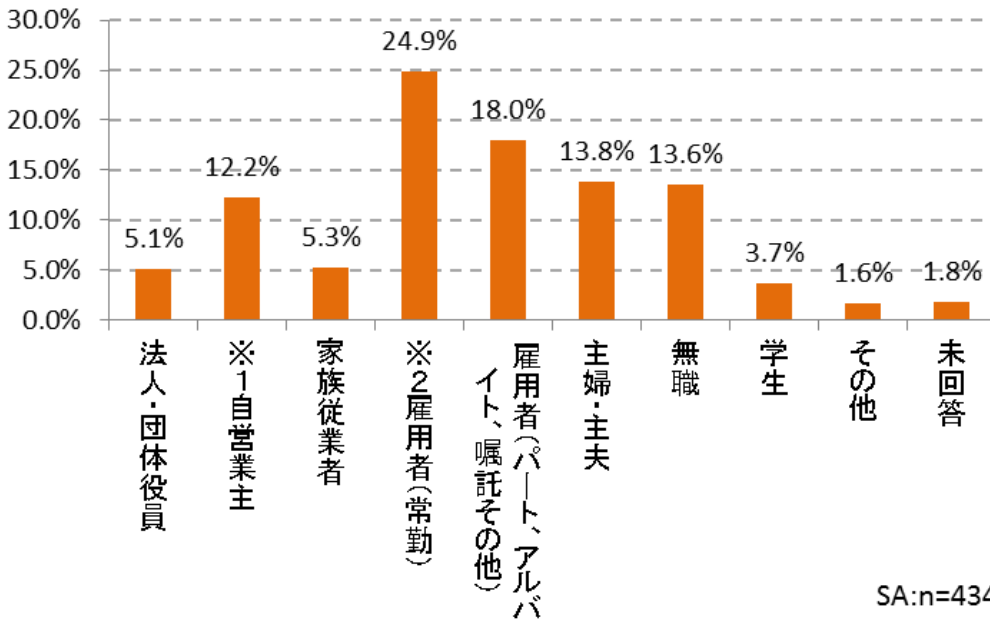


ウ. あなたのお住まいの地区は。

居住地区の内訳では、上谷・中谷・下谷を合わせた谷村地区の方が29.9%、次いで禾生地域が20.5%、東桂地域が19.6%となっています。



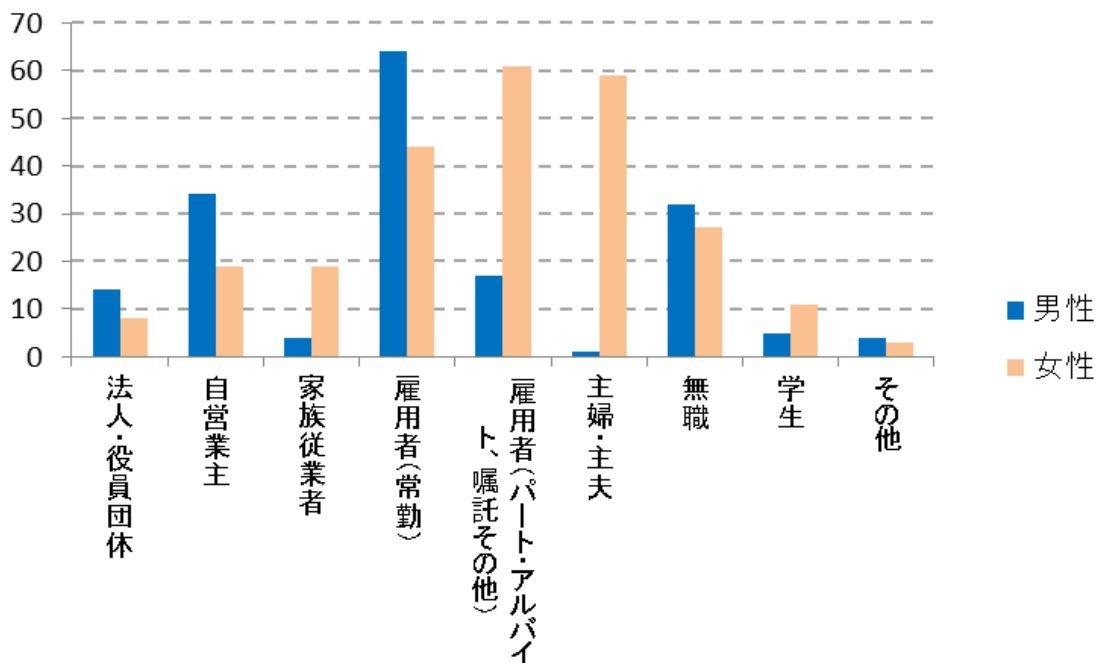
エ. あなたの主たる職業は何ですか。一番近いものをお答えください。



※¹具体的には、農林漁業、商工サービス業、自由業、家庭内職者などが該当します。
 ※²出産休暇、育児休業中も含まれます。

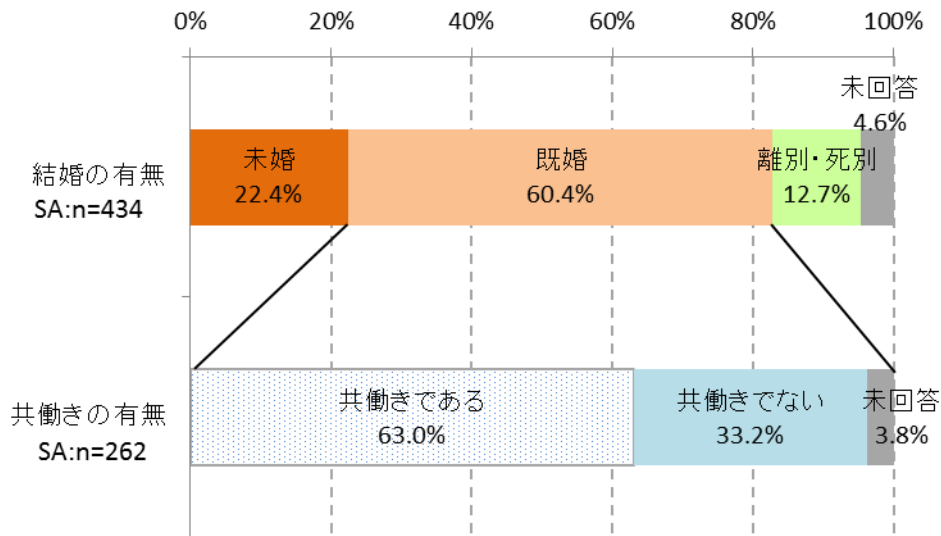
職業では、雇用者（常勤）の方が 24.9%となり、次いで雇用者（パート・アルバイト、嘱託その他）が 18.0%と続いています。

男女別の就業状況内訳(人)



男女別で職業の内訳を見ると、男性では雇用者（常勤）、女性では雇用者（パート・アルバイト、嘱託その他）が一番多くなりましたが、主婦・主夫については男女差が一番大きい結果となりました。

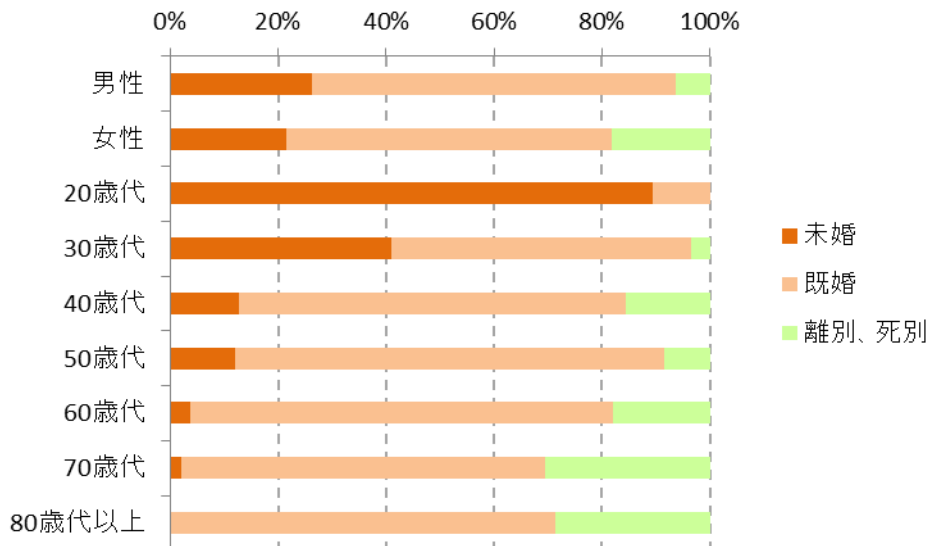
オ. あなたは結婚（事実婚含む）されていますか。



結婚の有無をたずねたところ、既婚（配偶者がいる）である方が 60.4%、未婚である方が 22.4%、離別・死別と回答される方が 12.7%となりました。

また既婚である方のうち、共働きであると回答される方は 63.0%、共働きでないと回答される方は 33.2%となりました。

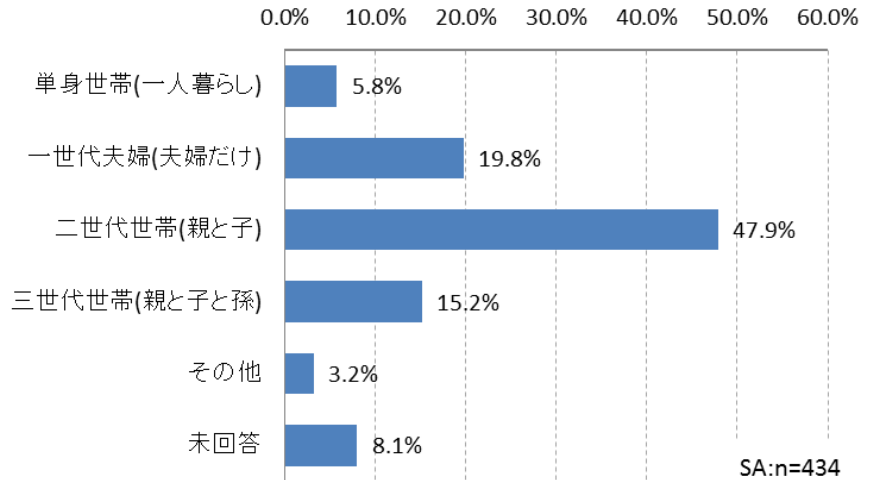
結婚の有無について
男女・年代別クロス集計



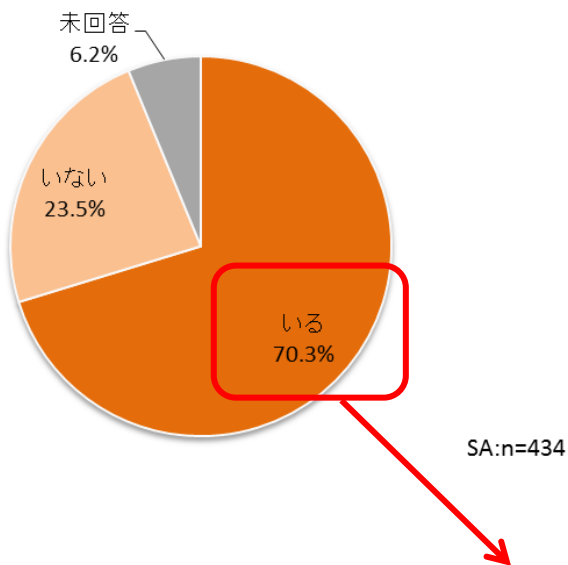
さらに、結婚の有無について、男女別・年代別に集計したところ、未婚率は男性の方が若干多くなり、20歳代から30歳代にかけて未婚率が高い結果となりました。

カ. あなたの家族構成は次のうちどれですか。

世帯構成は、二世帯世帯（親と子）が一番多く、47.9%となっています。次いで一世帯夫婦（夫婦だけ）が19.8%、三世帯世帯（親と子と孫）15.2%となっており、核家族世帯が多い現状がうかがえます。

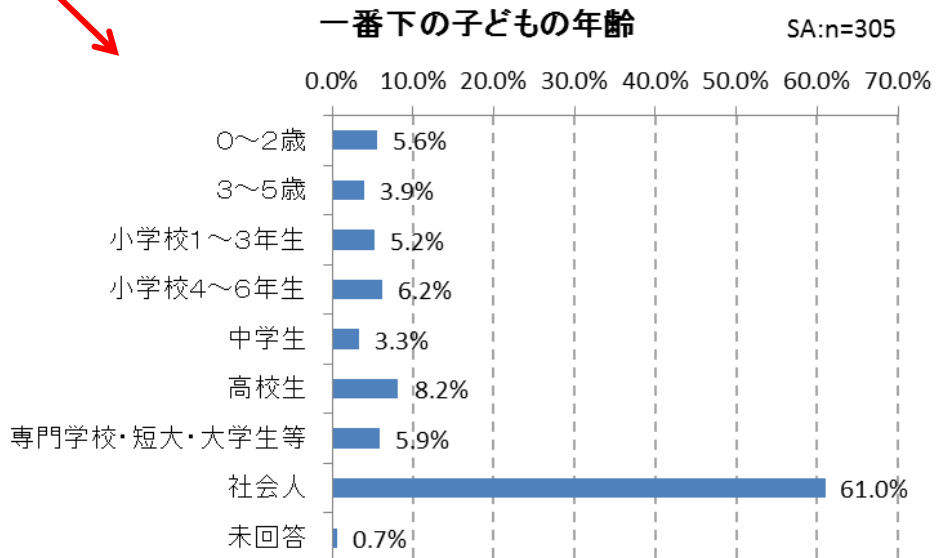


キ. あなたには、お子さんがいますか。



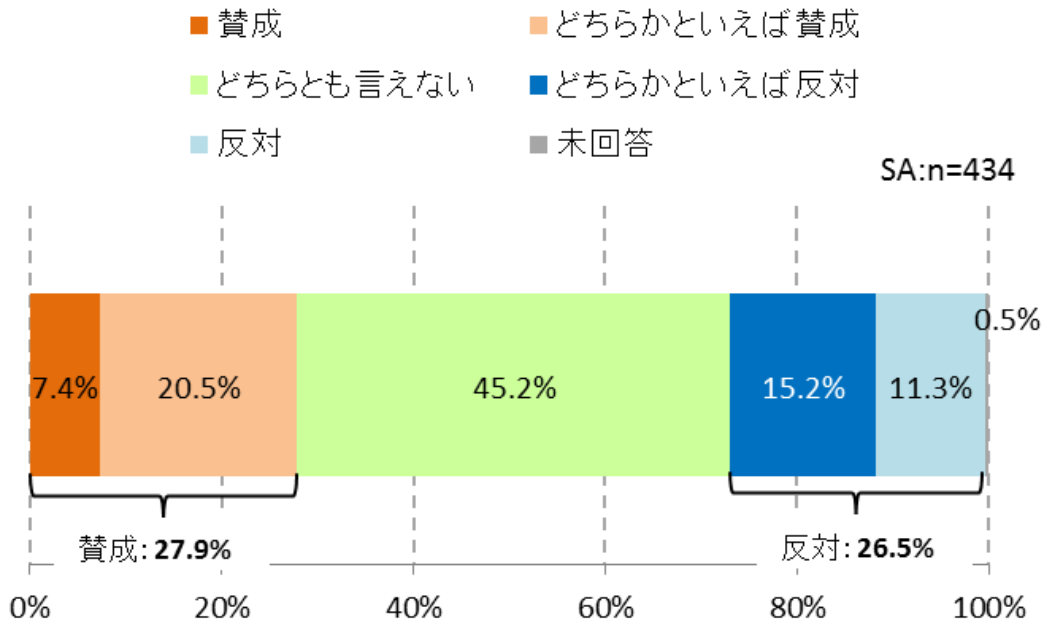
子どもの有無をたずねたところ、いると回答された方は70.3%、いないと回答された方は23.5%となりました。

また、「子どもがいる」と回答された方に、一番下の子どもの年齢をたずねたところ、社会人が61.0%と一番多く、次いで高校生が8.2%、専門学校・短大・大学生等が5.9%となりました。



■男女の役割や家事・育児への取組について

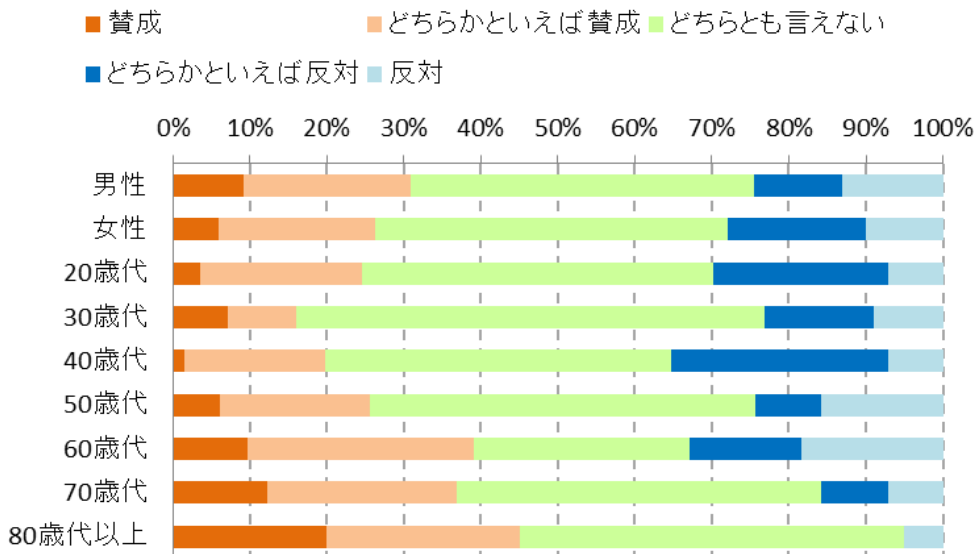
問1. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてたずねたところ、「どちらとも言えない」と回答される方が45.2%と一番多くなりました。

また、7.4%が「賛成」と回答し、20.5%が「どちらかといえば賛成」と回答したのに対し、11.3%が「反対」、15.2%が「どちらかといえば反対」と回答しました。この結果、賛成側の考えを持つ方が27.9%となり、反対側の考えを持つ26.5%をわずかに上回りました。

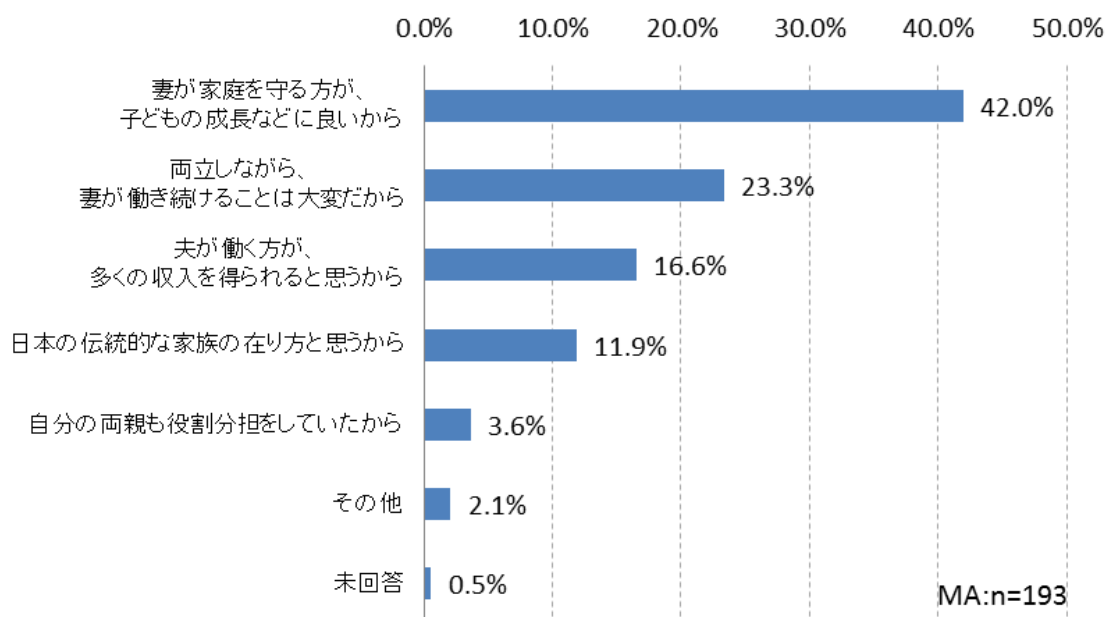
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」について
男女別・年代別クロス集計



この回答を男女別・年代別に見てみると、女性に比べ男性の方が「賛成」「どちらかといえば賛成」と答える方の割合が高くなりました。

また、年代が高くなればなるほど賛成側の考えを持つ方が概ね多くなりますが、他の年代と比べて20歳代、40歳代においては「どちらかといえば反対」と回答される方が多くなりました。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」について
「賛成」「どちらかといえば賛成」である理由

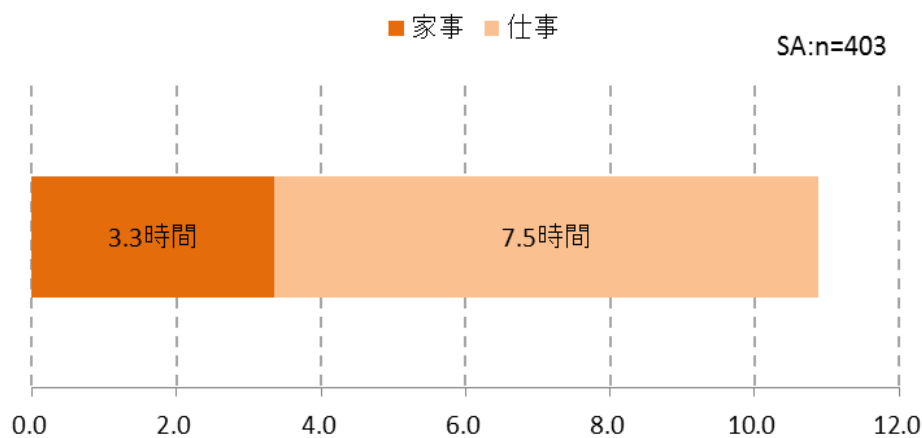


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答された方のみに対し、その理由をたずねたところ、「妻が家庭を守る方が、子どもの成長などに良いから」が42.0%と一番多くなり、次いで「両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」が23.3%、「夫が働く方が、多くの収入を得られると思うから」が16.6%と続きました。

その他の意見

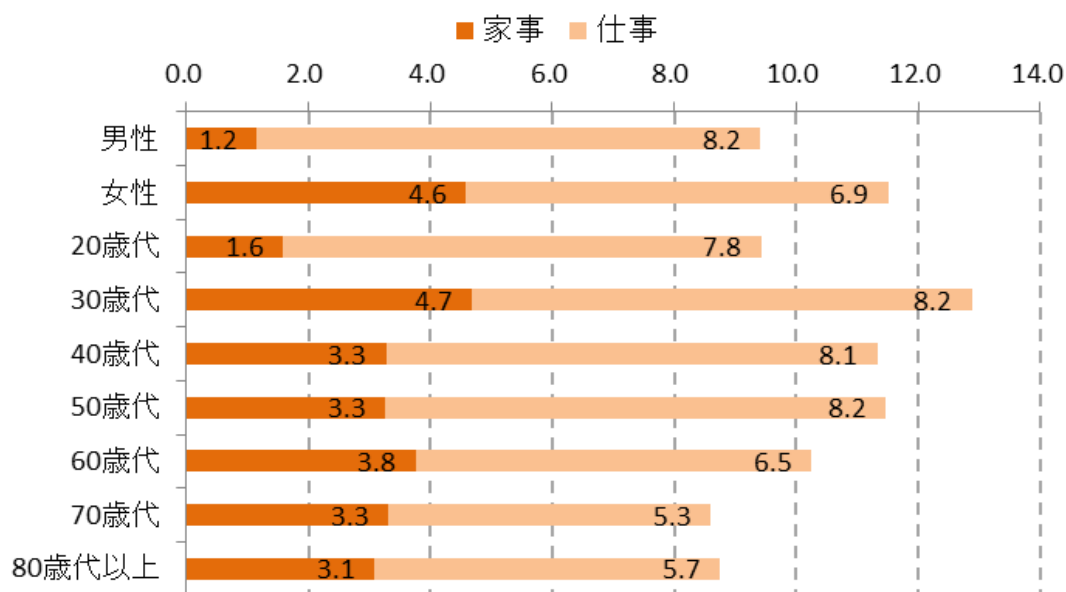
- ・妻が外に出るようになった近年、さまざまな家庭の問題が増えたと思います
- ・女性にしか子供が産めないから
- ・夫の収入次第ですが
- ・子育てが終わったら働いてもいいかな！
- ・家族の安心のため、安らぎの場所のため
- ・子どもが3才になるまでは母親が自分の手で育てないと子どもに対して愛情が薄くなるから。親に愛されないで育った子どもは将来うつ病などになりやすい。子どもを愛せない親自身も幸せでないと思う

問2. あなたが1日に行う家事（育児や介護を含む）の時間と、仕事（収入を得るための労働）の時間は、それぞれ平均どれ位ですか。



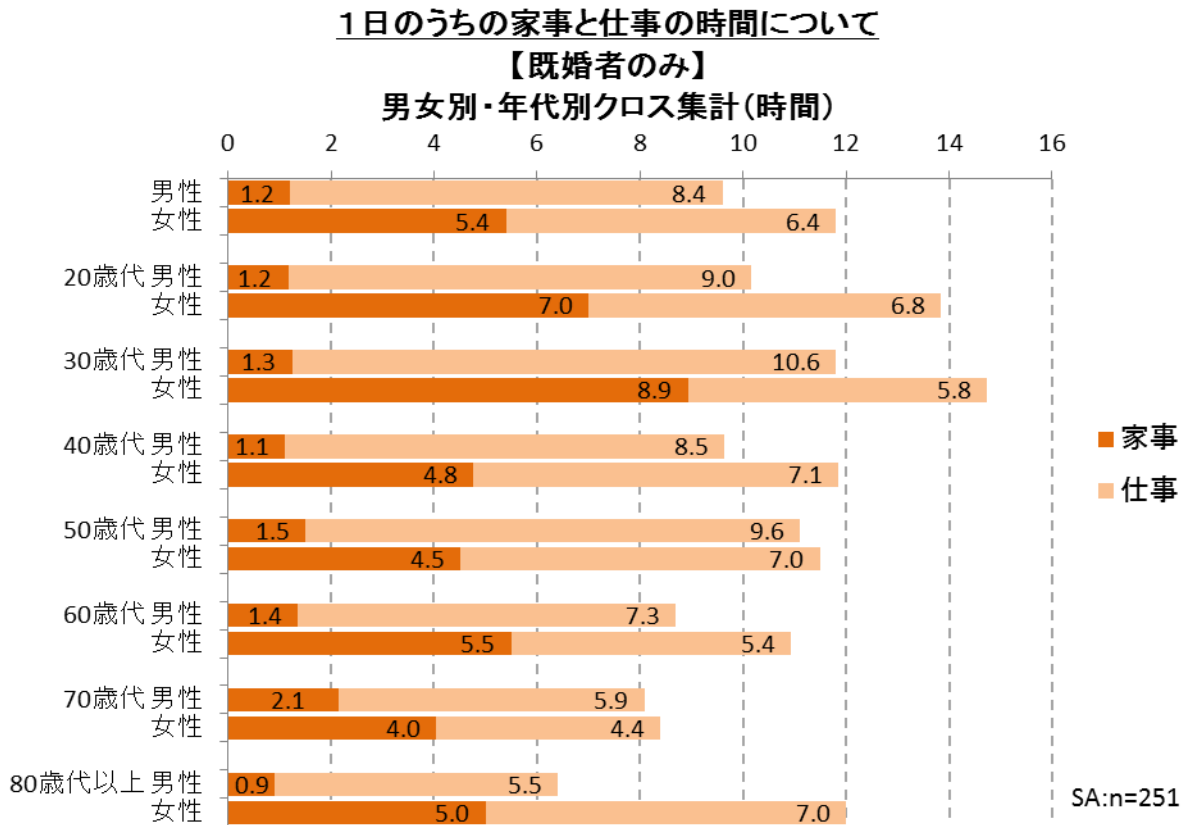
1日に行う家事（育児や介護を含む）と仕事（収入を得るための労働）のそれぞれの平均時間をたずねたところ、回答者全体では家事が3.3時間、仕事が7.5時間という結果になりました。

**1日のうちの家事と仕事の時間について
男女別・年代別クロス集計(時間)**



この時間を男女別・年代別で見ると、男性は1日のうち家事（1.2時間）に比べ仕事（8.2時間）に費やす時間が多い一方、女性は家事（4.6時間）より仕事（6.9時間）に費やす時間が若干多くなりました。

また、他の年代に比べ20歳代は家事に費やす時間は1.6時間と少なく、30歳代の家事に費やす時間は4.7時間と多くなりました。



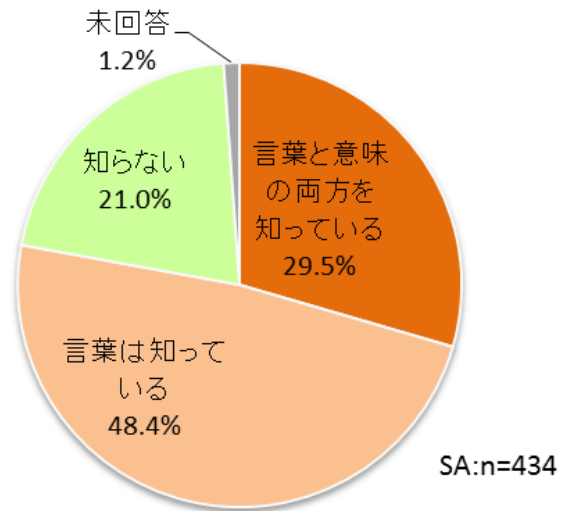
次に、回答者のうち「既婚（配偶者がいる）」である方のみを対象に、この回答を男女別・年代別に見てみると、1日のそれぞれの平均時間について、男性は家事が1.2時間、仕事が8.4時間であり、女性は家事が5.4時間、仕事が6.4時間という結果になりました。

このことから、既婚者の男性が家事より仕事に多く時間を費やす一方で、既婚者の女性は家事と仕事にほぼ同じ時間を費やしていることがわかります。

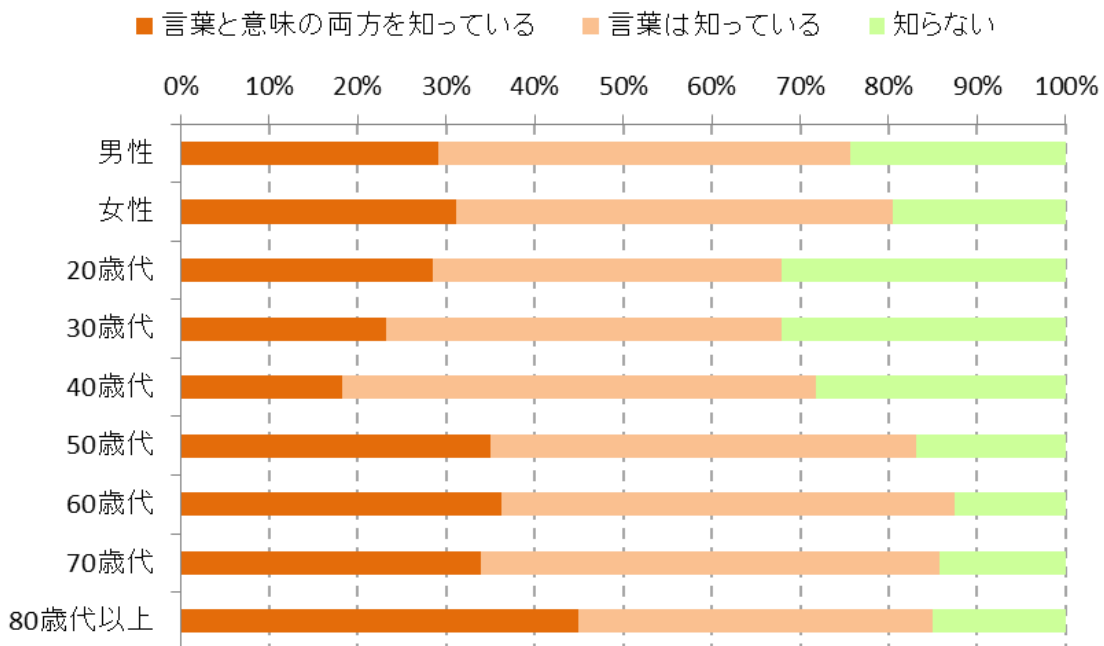
また、どの年代においても概ね家事と仕事に費やす時間のバランスは男性よりも女性の方が均一であり、男性は仕事に費やす時間が多いという結果になりました。そして、他の年代に比べ、30歳代の女性が家事に費やす時間（8.9時間）が一番多くなりました。

問3. あなたは「男女共同参画」について、どれくらい知っていますか。

男女共同参画⁽¹⁾の認知度についてたずねたところ、「言葉は知っている」と回答される方が48.4%と一番多く、次いで「言葉と意味の両方を知っている」が29.5%、「知らない」が21.0%と続きました。



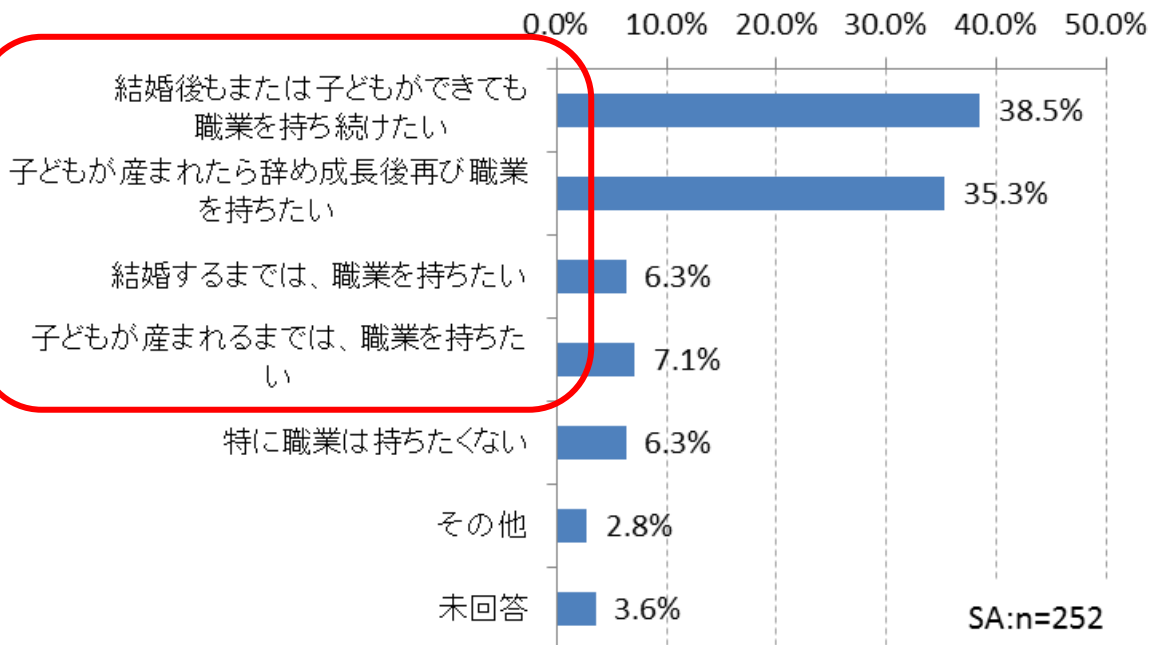
男女共同参画の認知度について
男女別・年代別クロス集計



この回答を男女別・年代別に見てみると、男性より女性の方が「言葉と意味の両方を知っている」「言葉は知っている」と回答される方が若干多くなりました。また、「知らない」と回答される方は20歳代、30歳代、40歳代に多く、50歳代からは「言葉と意味の両方を知っている」と回答される方が多くなっています。

■働き方などについて

問4. 【女性のみ回答】 あなたはどのように生きていきたいとお考えですか（でしたか）。



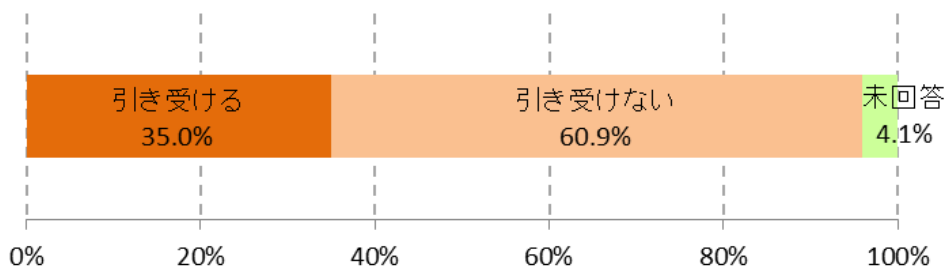
女性のみに対し、望む（望んでいた）生き方についてたずねたところ、「結婚後もまたは子どもができて職業を持ち続けたい」（38.5%）と回答される方が一番多く、次いで「子どもが産まれたら辞め成長後再び職業を持ちたい」（35.3%）、「子どもが産まれるまでは、職業を持ちたい」（7.1%）と続き、「結婚するまでは、職業を持ちたい」と「特に職業は持ちたくない」（6.3%）の回答率は同じ結果になりました。

その他の意見

- ・結婚したくない ・仕事、家事両立中
- ・自営なので、24時間家族と一緒に。体が健康なら働く、いつまでも
- ・職業を持つことは、自分自身にとって張り合い力が持て毎日が充実します

もしあなたが管理職になるように
求められたら引き受けますか

SA:n=220



この質問に対し、いずれにしても「職業を持ちたい」と回答された方に対し、もし管理職になるように求められたら引き受けるかどうかをたずねてみたところ、「引き受ける」と回答される方が35.0%、「引き受けない」と回答される方が60.9%となりました。

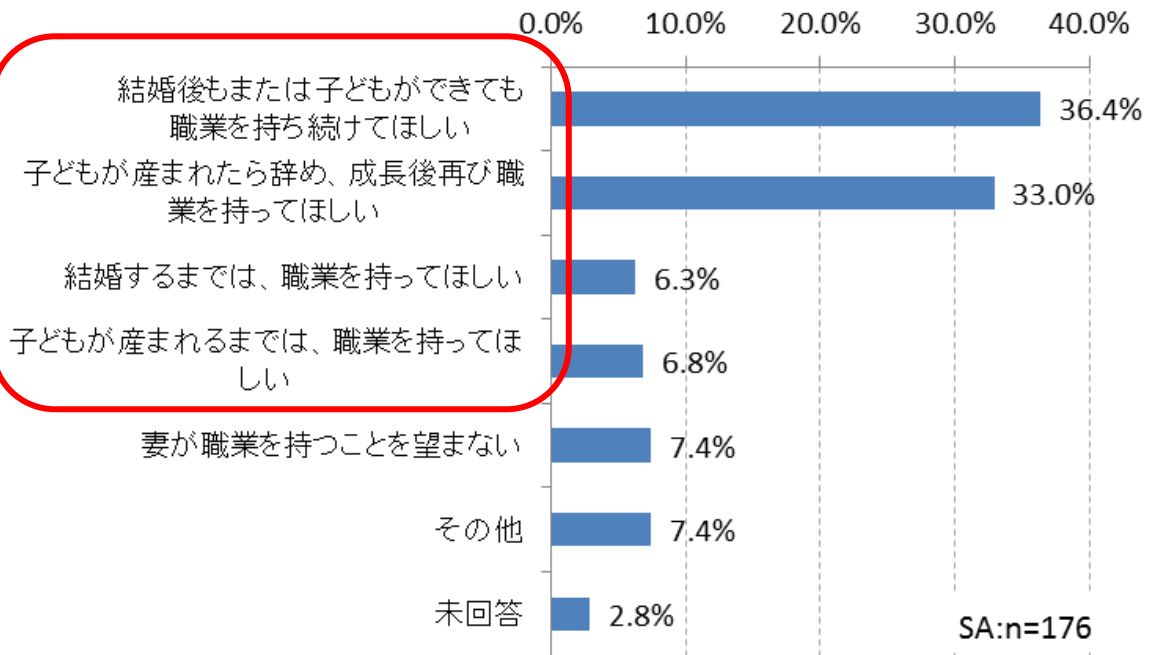
管理職を「引き受ける」と回答された方にその理由をたずねたところ、以下のような理由が挙げられました。

- ・ どの職でも学びがあるため
- ・ 家族で相談し、自分の力をいかしたい。(能力)
- ・ 自分に任せてくれたことがうれしかったから
- ・ リーダーシップは男女関係ない事なので
- ・ 能力を認められたのだから、頑張りたい
- ・ 自分自身の向上のため
- ・ 経営者なので最初から管理職
- ・ 条件があります、子供も成長し家庭にある程度支障がなければ
- ・ 成長できるから
- ・ 仕事だから、給料が上がるのであれば
- ・ 給料が上がる
- ・ 男女関係なく仕事はしっかりするべきだと思う
- ・ その時の状況にもよりますが環境(親の介護、自分の健康)が整っていれば
- ・ 納得のいく職業に就いていたら求めに応じたい
- ・ 部下をまとめ物事を対外的に処理する自分を試したい
- ・ 必要とされている人材だとみなされているから
- ・ 子どもも手をはなれ、仕事もできるようになってきているから
- ・ 賃金が良く、仕事での責任ある事を任せられるので
- ・ 認められて任せてもらえるから、女性目線の考え方を活かせるのであれば
- ・ その時の状況にもよるが働きがいがあると思うので
- ・ 仕事を続けたいから
- ・ 与えられたチャンスと思い頑張って全うする
- ・ 今、管理職ですが、日々やりがいを感じております
- ・ 自分の能力が発揮できると思う
- ・ 任された仕事を受け持ちたいから
- ・ 自分への評価だと思うから、家事との両立ができそうであれば・・・
- ・ 自分も向上する責任のある事を子どもにも言葉でなく姿勢で示す
- ・ 自分の能力向上のため
- ・ 自分の能力を使いたい
- ・ 自分にある能力を最大限に使いたい
- ・ 収入が増えるから

一方、管理職を「引き受けない」と回答された方にその理由をたずねたところ、以下のよう理由が挙げられました。

- ・ 両立できないから
- ・ 状況による
- ・ 家庭を優先したいから
- ・ 家族に迷惑がかかる
- ・ 大変だから
- ・ 中途半端になるから
- ・ 拘束時間が長くなるため
- ・ 時間が自由にならない
- ・ 子どもや家庭を第一優先したい
- ・ 指導者になる自信がない
- ・ 子育てとの両立ができるか心配なため
- ・ 現在は子育て中のため、子供のために時間を使いたい
- ・ 家族の協力が必要だが、困難な状況だから
- ・ 管理職はちょっときついので職を選びます
- ・ 結婚後は、自分だけの考え方では家庭生活が送れない。家族が同じ考え方のみ成立する。
- ・ 家事にも時間を取られるので仕事にばかり責任を持ってない
- ・ どちらかと言えば家庭を優先したいから
- ・ 仕事もしたり、子供も見たり大変だから
- ・ 子供が産まれたりすると休む事もあり、仕事に支障をきたすため
- ・ 育児が大変なので両立する自信がありません
- ・ 子供が高校を卒業するまでは家事等忙しいため
- ・ 家庭の状況を見て受ける気持ちはないので
- ・ 性格的に男性には意志を伝える自信がないから
- ・ 責任を持つということは大変で、自分には無理だと思う
- ・ 人生興味趣味を活かし、楽しい人生を送るため
- ・ 独身なら考えるかもしれませんが、子供がいれば働いていても、主人もいるし子供を一番に考えて生活するので引き受けないと思う
- ・ 子供が大きくなるまでには大きな仕事をしない
- ・ 家事・子育てだけでも大変なのに（男性は、仕事のみで家事・育児はない）
- ・ まだわからない、引き受けるには、その時のタイミングも・・・
- ・ 子供の成長に関わってきたいので成長後また職につきたい
- ・ 私にはその意欲もなく、能力もないと思うから
- ・ 家庭と仕事を両立できなくなってしまいそうだから
- ・ 仕事と家庭の両立をしたいのでなるべく負担を少なくしたい

問5. 【男性のみ回答】 あなたの配偶者（妻）にはどのようなことを望みますか（ましたか）。

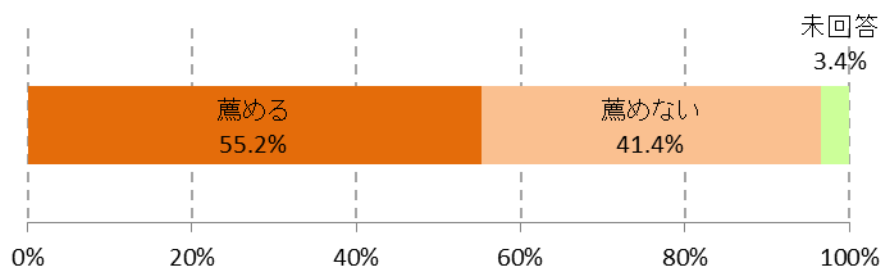


男性のみに対し、妻に望む（望んでいた）生き方についてたずねたところ、「結婚後もまたは子どもができて職業を持ち続けてほしい」（36.4%）と回答される方が一番多く、次いで「子どもが産まれたら辞め、成長後再び職業を持ってほしい」（33.0%）と続き、「妻が職業を持つことを望まない」と「その他」が7.4%、「子どもが産まれるまでは、職業を持ってほしい」が6.8%となりました。

その他の意見

- ・女性（本人）の希望を優先する
- ・個人の自由
- ・本人の意志に任せる
- ・相談して決める、配偶者の意思を尊重したい
- ・その時の状況によって対応
- ・どちらでも良い
- ・妻が職業を持つことを望まないが、現代の日本では夫の給料のみでは不可能な家庭が多い
- ・老人が増え、介護におわれ、仕事をあきらめる人が多く出ると思う

もしあなたの妻が管理職になるように求められたら引き受けることを薦めますか



この質問について、いずれにしても「職業を持ってほしい」と回答された方に、もし妻が管理職になるように求められたら引き受けることを薦めるかどうかをたずねてみたところ、「薦める」と回答された方が55.2%、「薦めない」と回答された方が41.4%となりました。

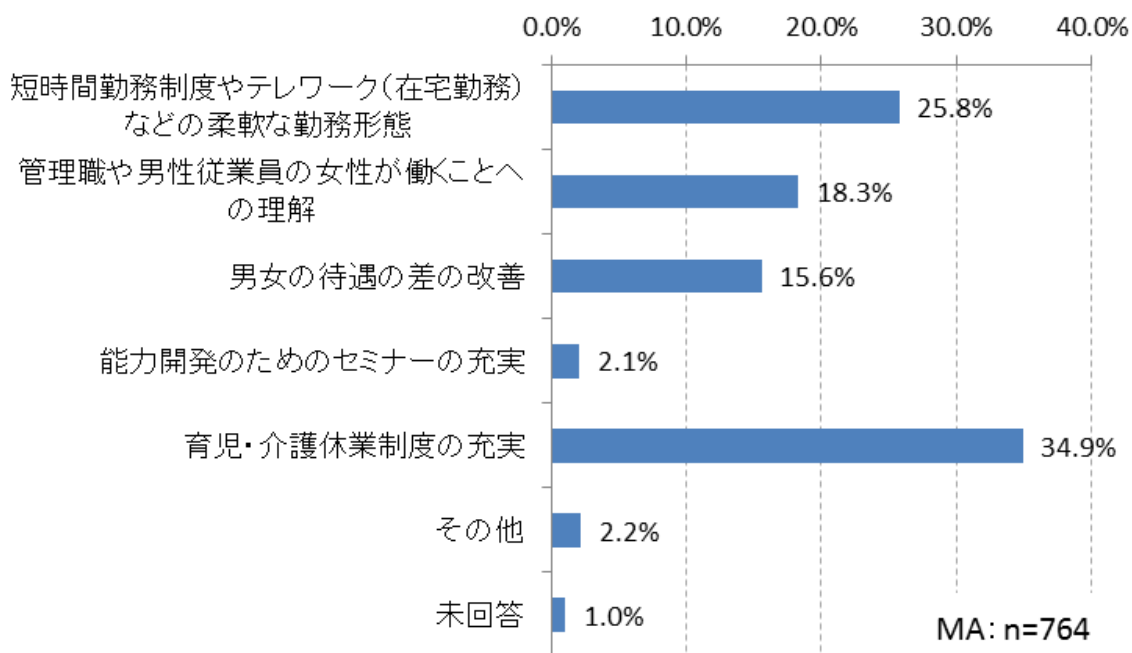
管理職を引き受けることを「薦める」と回答された方にその理由をたずねたところ、以下のような理由が挙げられました。

・ 適正能力があれば発揮すべきだと思う	・ 妻が望むなら
・ 能力があるなら活躍してもらいたいから	・ 収入が上がるため
・ どんどんやってほしい	・ 会社に薦められているから
・ 女性の管理職が未だ少ない	・ 本人が望むなら
・ 仕事を持ってほしいから	・ それだけの能力があるから
・ 子供が生まれるまでなら	・ 本人次第
・ それだけの能力があるので	・ 私が主夫になれるので
・ 必要とされているのであれば薦める	・ 能力を発揮してほしい
・ 収入アップが期待されるため	・ 責任を担う社会をつくる
・ 本人の社会的実力を尊重したい	・ 収入が増えると思う
・ 子育てが終われば良いと思う	・ 家の外にいるのは気持ち的に良い
・ 求められたら引き受けるのが自然	・ 最終的には本人の意思に任せる
・ 会社にも家庭にもメリットが多いから	・ 自分を磨くためにはいいことだと思う
・ 管理職になることは仕事を続ける目的の一つだから	
・ 基本的に本人に任せますが、能力があるならば、人様のお役にたてば良いと思うので	
・ 能力を最大限生かして社会で活躍してほしい	
・ 必要とされているのであれば、答えられる範囲で考えるべき	
・ 強い意志を持ち続けて欲しい、後に子供のためになる	
・ 将来のことを考え収入の多い方が良いから	
・ 収入が増える、時間外（残業）が少なくなるため	
・ 切磋琢磨しながら互いに成長し、それぞれの実力を蓄える	
・ 評価される事は良い事だと思う、問題があった場合はしっかり対応する	
・ 人間としても勤務としても認められた証であるため	
・ 社会のためになることであり力を出して欲しい	

また、管理職を引き受けることを「薦めない」と回答された方にその理由をたずねたところ、以下のような理由が挙げられました。

・ 人の人生を左右する事は大変だから	・ 時間の自由がなくなる
・ 時間が不規則になるから	・ 大変そうだから（本人次第）
・ 家事がおろそかになる可能性	・ 家族のためゆとりを持ってもらいたい
・ 仕事に束縛される状態を望まないから	
・ 仕事優先になりコミュニケーションの時間が減りそう	
・ 忙しいことや家の中のことが自分にかかってくると思うから	
・ 精神的また労働時間に負担が多くなると思うので	
・ 子育ての大切な時は、子供のそばにいて育ててもらいたい	

問6. 女性が働き続けるためには、職場において何が重要だと思いますか。



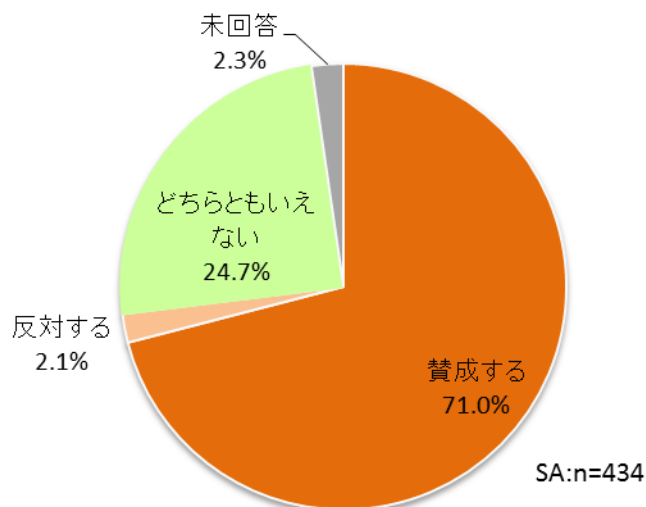
女性が働き続けるために、職場において必要なことをたずねたところ、「育児・介護休業制度の充実」(34.9%)と回答される方が一番多く、次いで「短時間勤務制度やテレワーク(在宅勤務)などの柔軟な勤務体制」(25.8%)、「管理職や男性従業員の女性が働くことへの理解」(18.3%)と続きました。

その他の意見

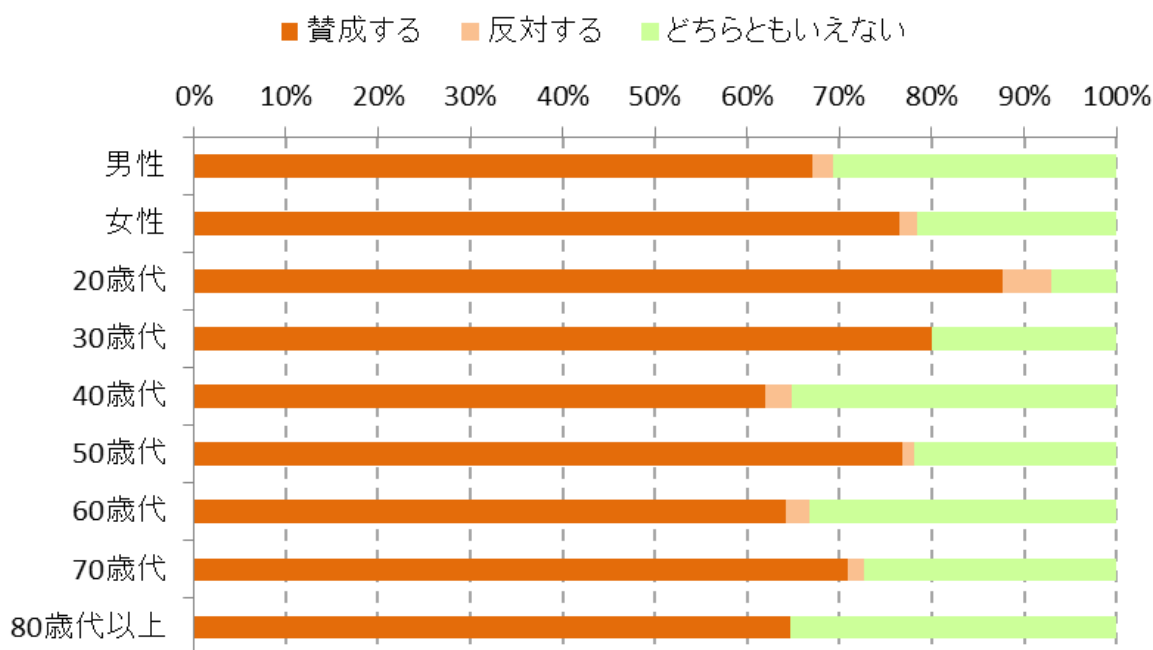
- ・これは2つに限る必要はない、一番大事な項目のため
- ・育児介護休業を取得しやすい環境、職場づくり
- ・再就職の場が少ない
- ・一人一人にあわせた仕事内容
- ・職場内託児所などの子育て支援の充実
- ・ハードな作業等は、男性になると思われるので、それを受け入れるためのフィロソフィーが必要
- ・雇用の安定(正社員は少なくパートや契約社員が多い為)
- ・家事育児をしている人だけでなく、その人らを支える若い人への対策。結婚していないから働ける時間があるという考え方は違う!
- ・給料面の待遇改善
- ・残業がないこと、仕事を代わりに合せて有給休暇をとりやすいこと
- ・「短時間勤務制度やテレワーク(在宅勤務)などの柔軟な勤務体制」のような働き方を職場のみんなが嫌な顔をせずに認めてくれる雰囲気
- ・子供が病気や具合が悪くなるのは、小学校に行くまでが多いと思います、その期間の会社の理解力(休み、遅刻、早退が多いので小学校に入るまで)
- ・病児保育室の保育園への併設
- ・子供がいる世帯ではほとんどの主婦が9時~4時で土日祝日休みの仕事を探しているが、夏休みなど学童が利用できないとなると学校が長期休みのため、退職するときもある
- ・男性も同じように育児休暇がとりやすい社会にするべき

問7. 男性が「育児休暇」や「介護休暇」を取得することについて、どう思いますか。

男性の「育児・介護休暇」の取得に関する考え方についてたずねたところ、「賛成する」と回答される方が71.0%と一番多く、次いで「どちらともいえない」が24.7%、「未回答」が2.3%と続き、「反対する」は2.1%と一番少ない結果となりました。

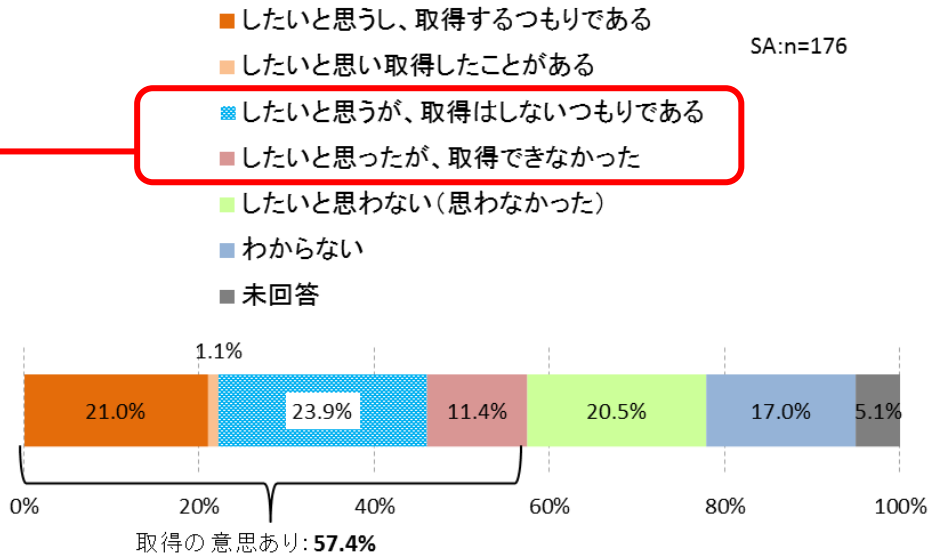


男性の育児・介護休暇取得について
男女別・年代別クロス集計



この回答を男女別・年代別に見てみると、男性よりも女性の方が「賛成する」と回答される方が多くなりました。また、どの年代においても「賛成する」と回答される方が多くなりましたが、一番多いのは20歳代、次いで30歳代であり、40歳代においては「どちらともいえない」が多い結果となりました。

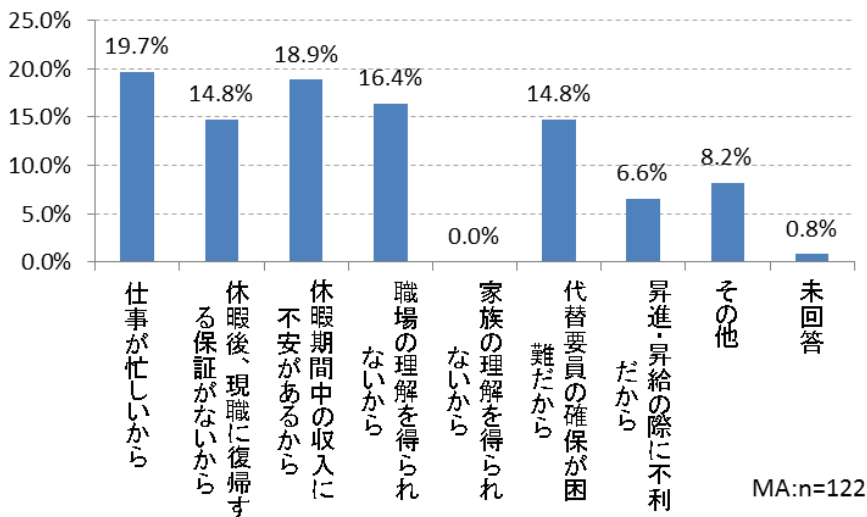
問8. 【男性のみ回答】（職場で出産・育児・介護に直面した状況を想定して）あなたは「育児休暇」または「介護休暇」を取得したいと思いますか（思ったことはありますか）。



男性のみに対し、育児・介護休暇の取得の意思についてたずねたところ、「したいと思うが、取得はしないつもりである」（23.9%）と回答される方が一番多く、次いで「したいと思うし、取得するつもりである」（21.0%）、「したいと思わない（思わなかった）」（20.5%）と続きました。

この結果から、取得をするという意志を持つ方が57.4%と半数以上を占めていることがわかりますが、実際の取得経験者は1.1%という結果となりました。

取得をしない(しなかった)その理由



この回答に関し、「したいと思うが、取得はしないつもりである」「したいと思ったが、取得できなかった」と回答された方にのみ、その理由をたずねたところ、「仕事が忙しいから」（19.7%）、「休暇期間中の収入に不安があるから」（18.9%）、「職場の理解を得られないから」（16.4%）と続きました。一方、「家族の理解を得られないから」と回答される方はいませんでした。

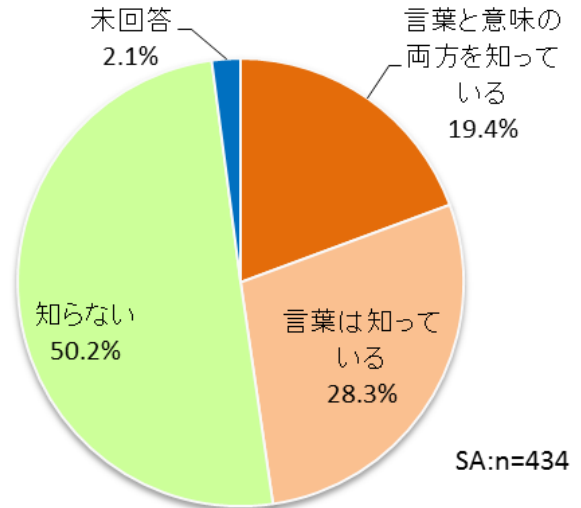
その他の意見

- ・他の職員に迷惑がかかるから
- ・大企業か公的機関なら可能かもしれないが、中小企業等では現実的ではない
- ・時代的にその様な制度もなく考えもしなかった
- ・妻が育休を取得したため、赤ちゃんのうちは「母」がそばにいる必要があると考えている（母乳や心の安定面で）
- ・職場で長期休暇をフォローできる体制が整っていない。数日レベルなら取得できると思う。
- ・会社にシステムがない
- ・自分の性格として中途半端は難しいと判断される
- ・制度が無かった
- ・女性と比べて休みづらい
- ・自営業

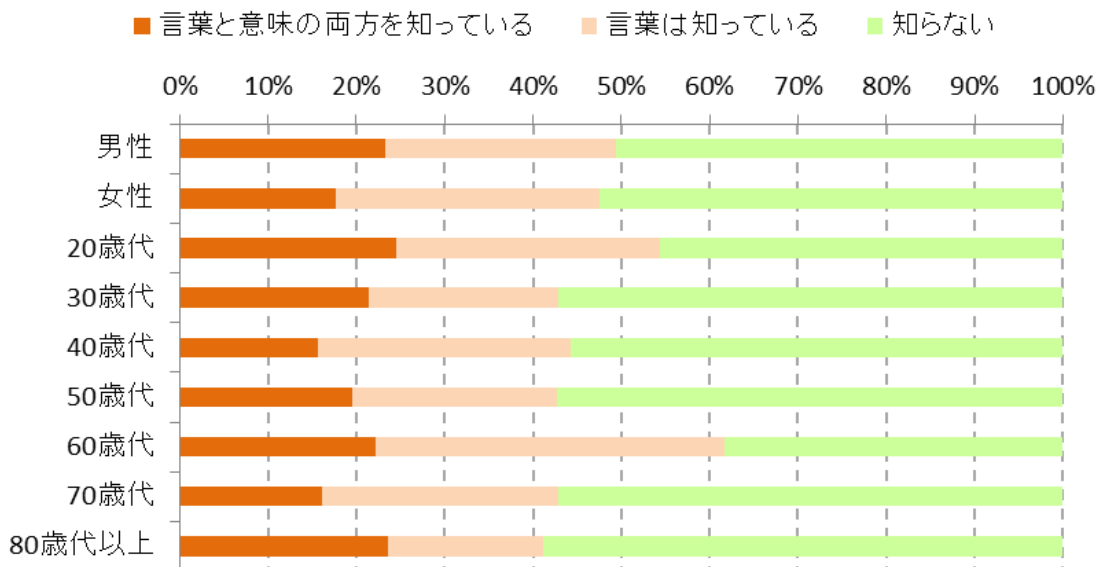
■地域活動や仕事との関わりについて

問9. あなたは「ワーク・ライフ・バランス」について、どのくらい知っていますか。

ワーク・ライフ・バランス⁽²⁾の認知度についてたずねたところ、「知らない」と回答される方が50.2%と一番多く、次いで「言葉は知っている」が28.3%、「言葉と意味の両方を知っている」が19.4%と続きました。



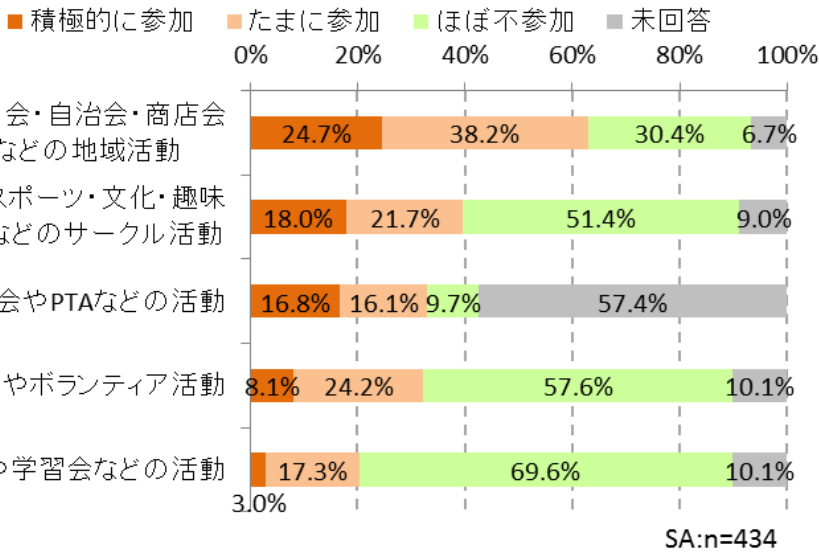
ワーク・ライフ・バランスの認知度
男女別・年代別クロス集計



この回答を男女別・年代別に見てみると、女性より男性の方が「言葉と意味の両方を知っている」と回答される方が若干多くなりました。

また、16ページの男女共同参画の認知度に関して、「知らない」と回答される方が21.0%であることと比較すると、ワーク・ライフ・バランスの認知度はまだまだ低いことがわかります。

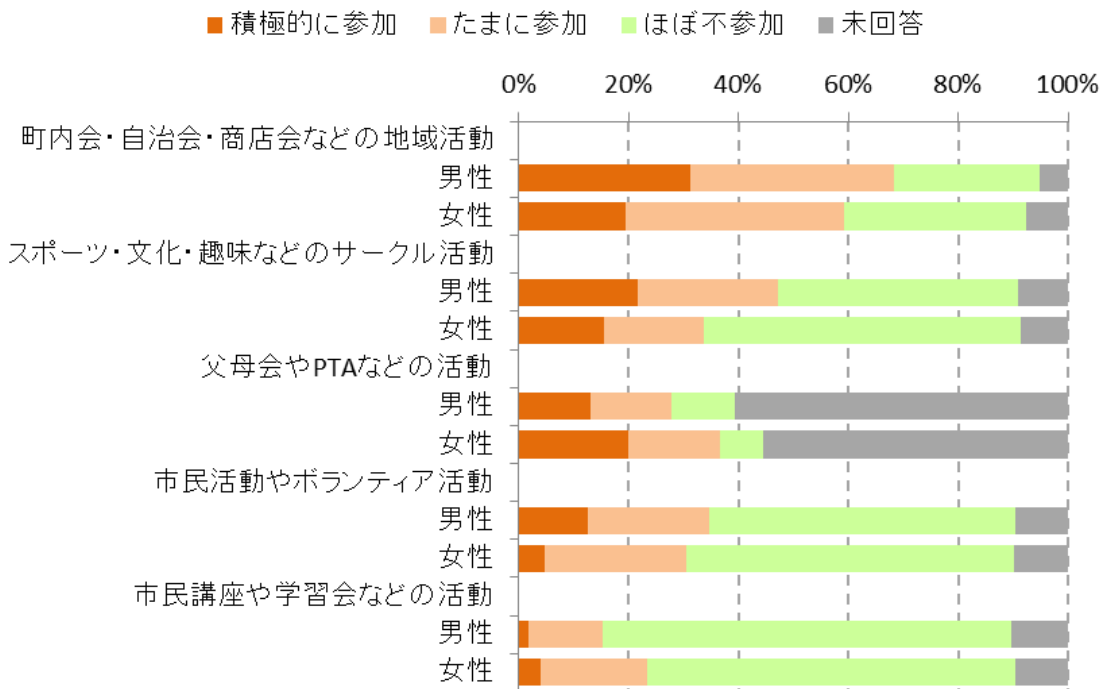
問10. あなたは、現在、次にあげるような地域活動に、どれくらい参加していますか。



地域活動への参加率についてたずねたところ、「積極的に参加」(24.7%)「たまに参加」(38.2%)と回答される方が一番多かったのは、町内会・自治会・商店会などの地域活動であり、次いで「積極的に参加」が18.0%、「たまに参加」が21.7%とスポーツ・文化・趣味などのサークル活動が続きました。

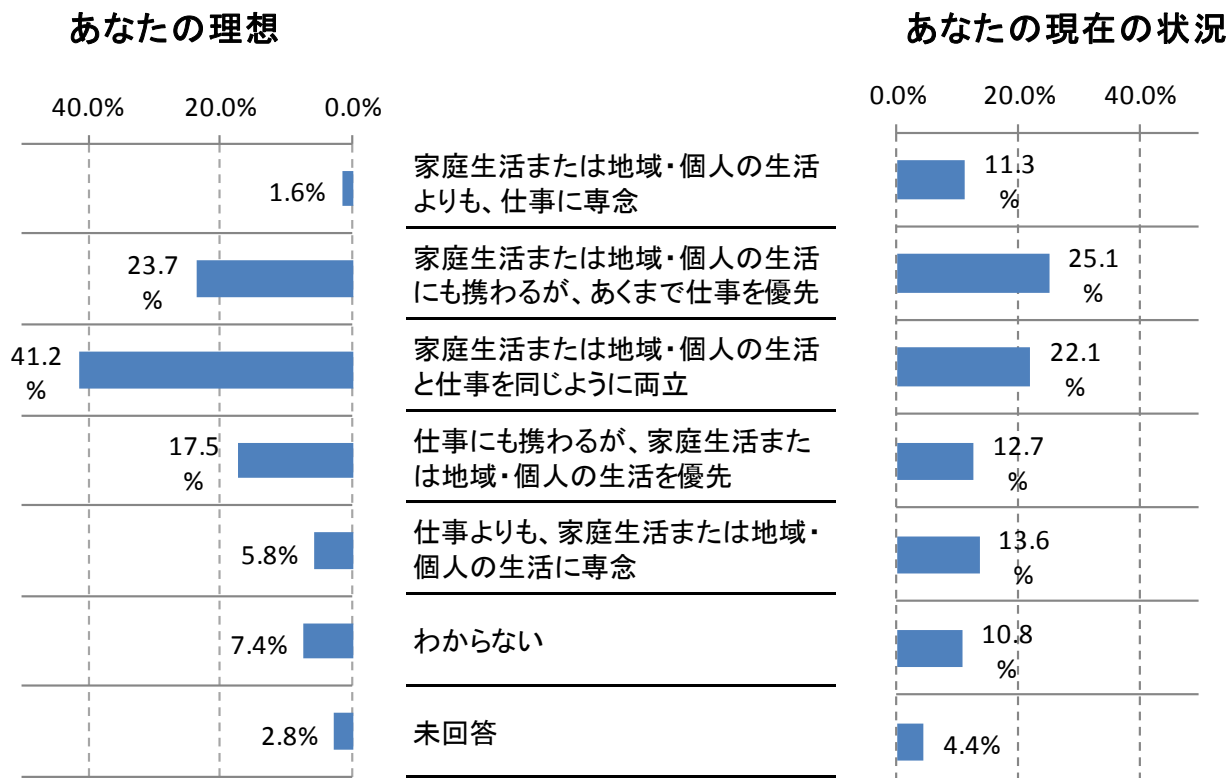
※父母会やPTAなどの活動について、回答者のうち「子どもがいない」と回答された方は未回答として扱っています。

地域活動への参加について
男女別クロス集計



この回答について、男女別で見ると、町内会・自治会・商店会などの地域活動やスポーツ・文化・趣味などのサークル活動、市民活動やボランティア活動については、女性より男性の方が参加率は高くなっている一方、父母会やPTAなどの活動と市民講座や学習会などの活動については、女性の方が参加率は高くなっています。

問 11. 12. 仕事と、家庭生活または地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・つきあい等）との関わりについて、あなたの理想に一番近いものと、現在の状況は何ですか。



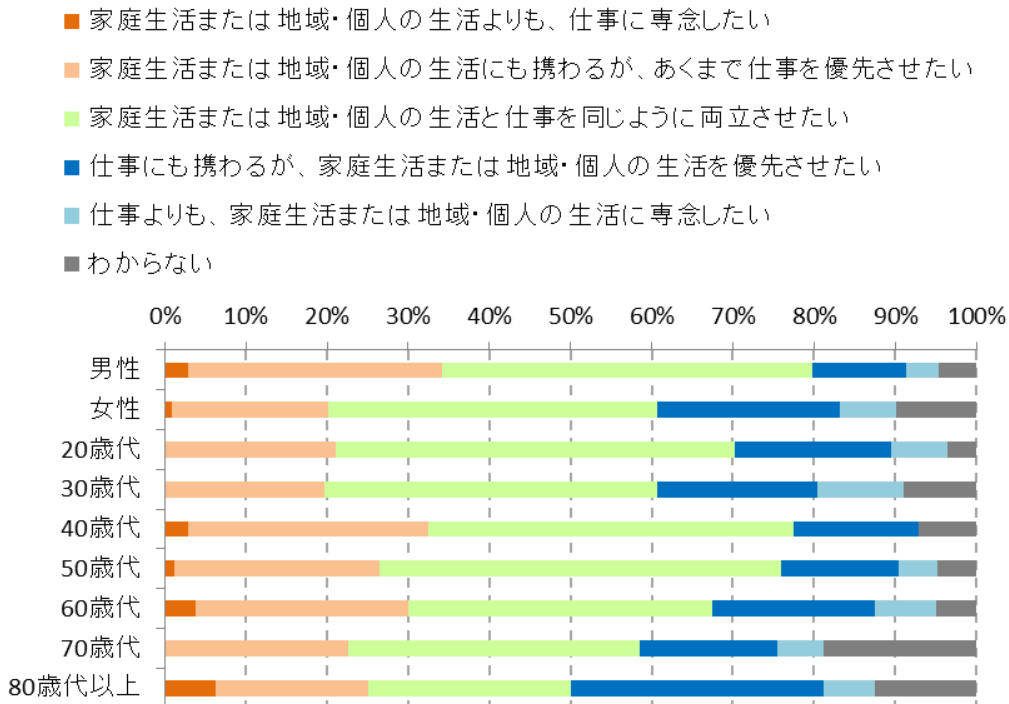
SA:n=434

仕事と、仕事以外の家庭生活や個人の時間との関わりについて、その理想と現実をたずねたところ、理想では「家庭生活または地域・個人の生活と仕事を同じように両立したい」と回答される方が 41.2%と約半数を占め、次いで「家庭生活または地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先したい」と回答される方が 23.7%、「仕事にも携わるが、家庭生活または地域・個人の生活を優先したい」と回答される方が 17.5%と続きました。

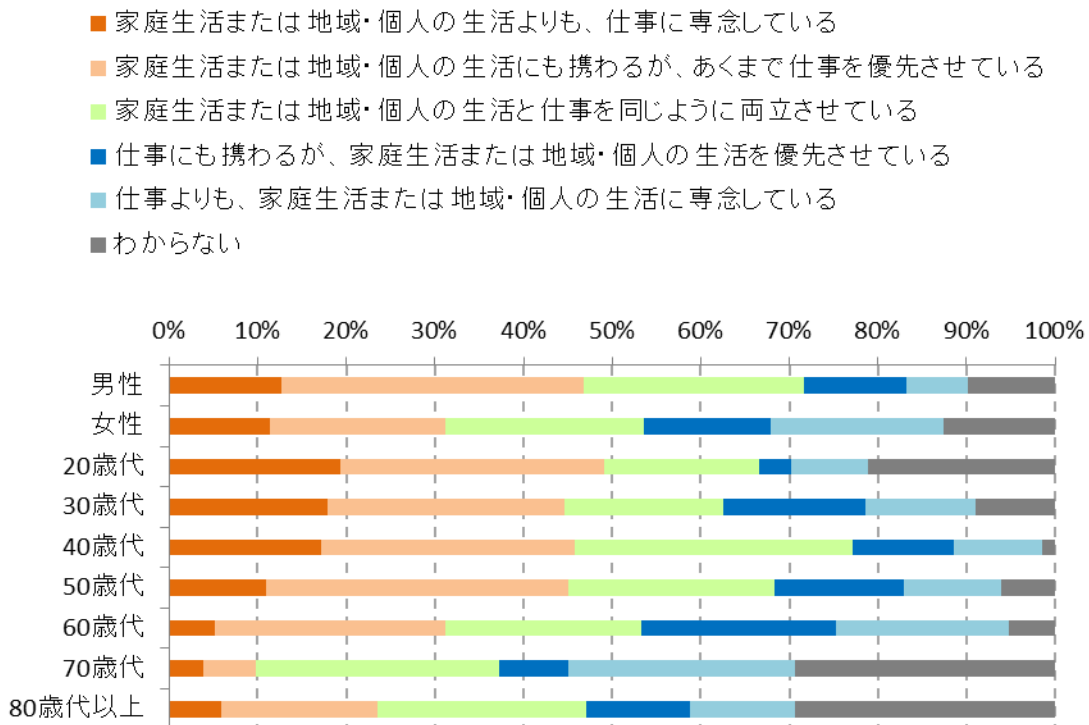
一方、現在の状況をたずねたところ、「家庭生活または地域・個人の生活にも携わるが、あくまで仕事を優先している」と回答された方が 25.1%と一番多く、次いで「家庭生活または地域・個人の生活と仕事を同じように両立している」と回答された方が 22.1%と続きました。

理想と現在の状況との差について、「家庭生活または地域・個人の生活と仕事を同じように両立したい」と考える方が 41.2%いる一方で、実際に両立できていると回答される方が 22.1%と差が一番大きくなりました。次いで、「家庭生活または地域・個人の生活よりも、仕事に専念したい」と考える方が 1.6%であるのに対し、実際に仕事に専念していると回答される方が 11.3%という結果になりました。

仕事と、家庭生活や個人の時間とのバランスの理想
男女別・年代別クロス集計

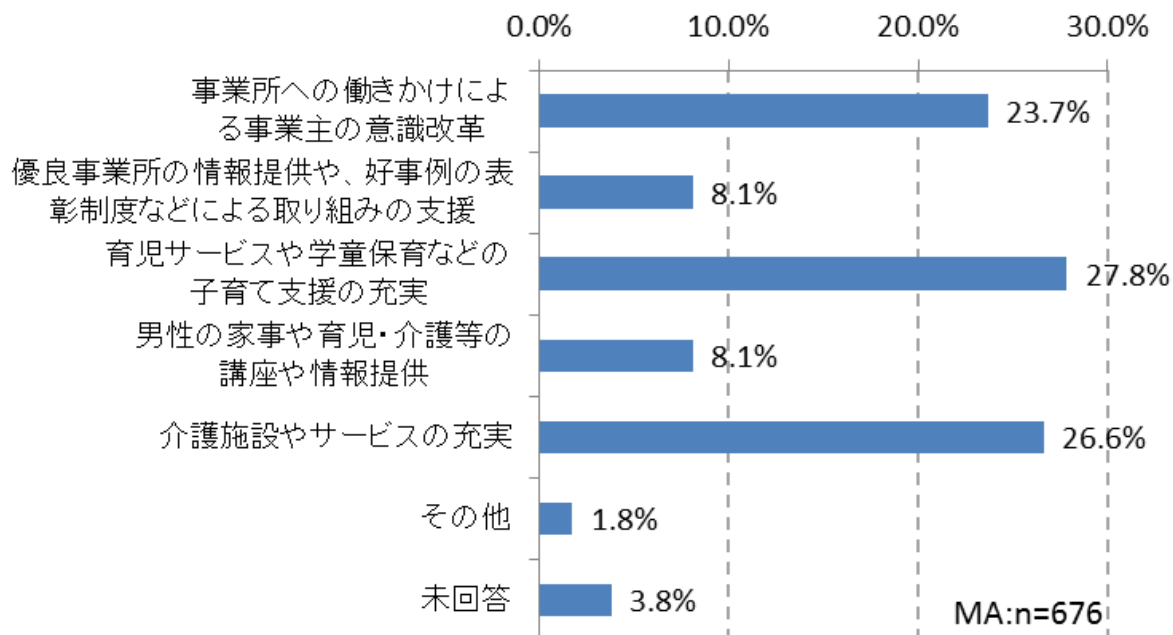


仕事と、家庭生活や個人の時間とのバランスの現実
男女別・年代別クロス集計



この回答を、男女別・年代別に見てみると、特に20歳代、30歳代において、「家庭生活または地域・個人の生活と仕事を同じように両立させたい」などにおける理想と現実の差が大きくなっている状況が見てとれます。

問 13. 「ワーク・ライフ・バランス」の実現のために、行政にどのようなことを望みますか。



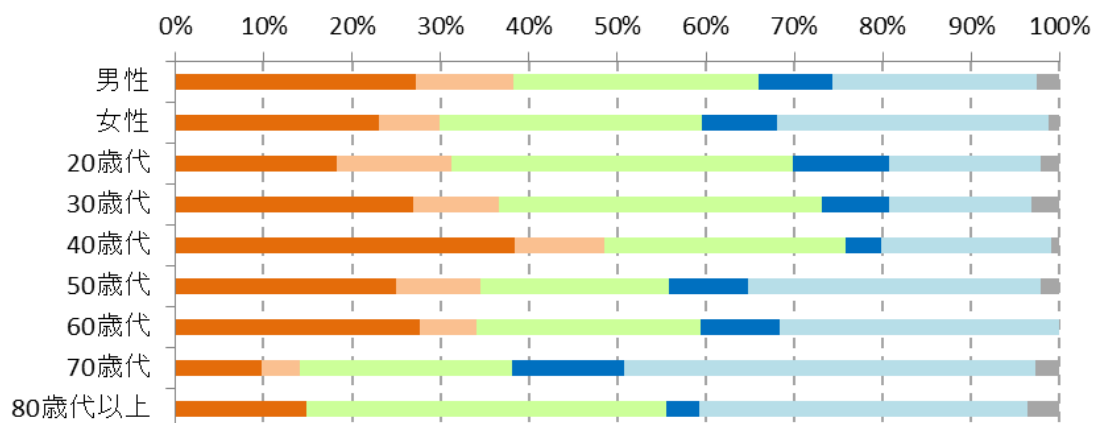
ワーク・ライフ・バランスの実現のために行政に望むことをたずねたところ、「育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実」と回答される方が 27.8%と一番多くなり、次いで「介護施設やサービスの充実」が 26.6%、「事業所への働きかけによる事業主の意識改革」が 23.7%と続きました。

その他の意見

- ・行政はどれも必要なものだから2つに限る必要はないと思う
- ・法改正等の大がかりな改革を行わないと実現は難しいと思う
- ・その前に本人の働く目的によって変わるので、事業所の現状把握が必要
- ・地域のメリット（東京に近い）を生かし移住者を増やす
- ・まず行政が手本となるような体制づくり
- ・同一労働同一賃金の実現（フルとパートの均等待遇）、労働時間を自己決定できる職場を増やしていく
- ・市役所の職員が積極的に制度を利用する
- ・行政は現実とかけ離れている
- ・病児保育室の保育園の併設

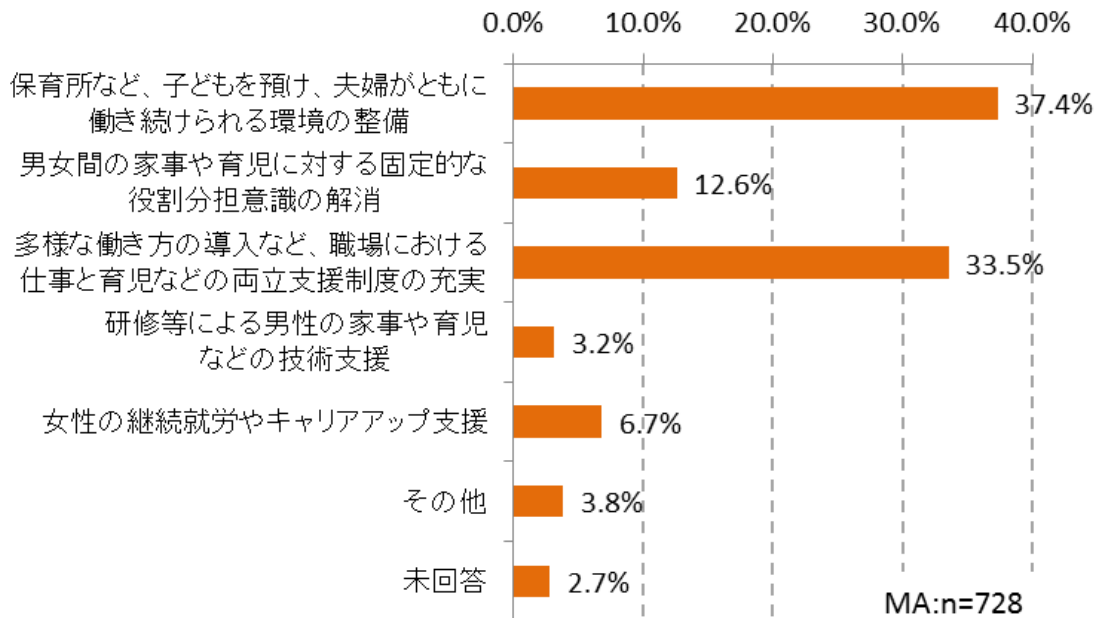
**ワーク・ライフ・バランス実現のため行政に望むこと
男女別・年代別クロス集計**

- 事業所への働きかけによる事業主の意識改革
- 優良事業所の情報提供や、好事例の表彰制度などによる取り組みの支援
- 育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実
- 男性の家事や育児・介護等の講座や情報提供
- 介護施設やサービスの充実
- その他



この回答を男女別・年代別に見てみると、「育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実」と回答される方は主に20歳代、30歳代に多く、「介護施設やサービスの充実」と回答された方は70歳代、80歳代以上に多くなりました。「事業所への働きかけによる事業主の意識改革」と回答される方については、40歳代が一番多い結果となりました。

問 14. 現在、人口減少対策として、子育て世代の男女間の役割分担や働き方の改革が求められています。子育て世代が理想の子ども数を持てるようにするために必要なことは何だと思えますか。



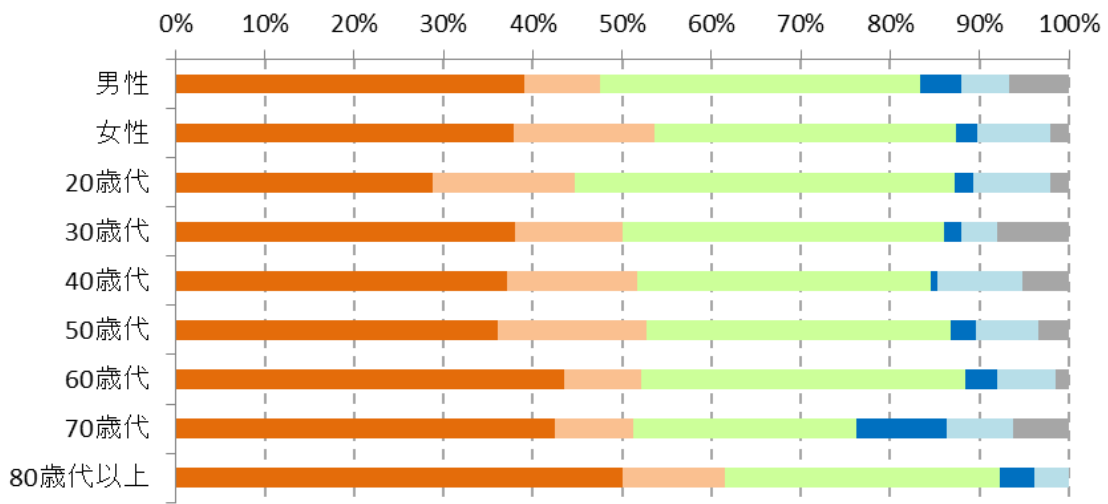
子育て世代が理想の子ども数を持てるようにするため必要なことをたずねたところ、「保育所など、子どもを預け、夫婦がともに働き続けられる環境の整備」と回答される方が37.4%と一番多く、次いで「多様な働き方の導入など、職場における仕事と育児などの両立支援制度の充実」が33.5%、「男女間の家事や育児に対する固定的な役割分担意識の解消」が12.6%と続きました。

その他の意見

- ・若者収入増が不可欠
- ・助成金などの充実
- ・公務員並みの賃金
- ・人口減と言うけど、夫婦で働いてしまうと、子供を預ける場所がない。体が大変だから若い人たちは結婚をしない。キャリアを取るには、家庭は大変
- ・その前に結婚する事ですね
- ・まず一番に景気回復だと思う
- ・若年者への金銭の補助、累進課税から
- ・収入増、または補助金
- ・経済の安定、無理なローンを組まなくても家が建てられる等
- ・まずは、結婚支援
- ・早婚助成金 23才~26才導入
- ・結婚相手を見つけることの手助け、お見合いパーティや婚活支援など
- ・育児のための金が必要。子供のいる家庭にもっと手当がほしい
- ・どれも必要。まず若い人が結婚し安心して子供を産むことが出来る環境を整備することが必要と思う
- ・給与面でのベースアップや税制面での減税サポート
- ・手当の増額等、金銭面での支援
- ・昔に比べ子供のためにする仕事が多すぎる
- ・育児休暇を子どもが3歳になるまでは取り、職場復帰が可能な社会づくり
- ・今の社会全体の意識の問題、少なくとも今の50歳以上の人が〇〇すれば変わるかも？
- ・共働きでは、子供の病気の時、誰かみてくれる人が必要です。(軽い症状の時) 熱があっても症状が軽ければみてくれる「なかよし」のような所が何カ所も必要です

子育て世代が理想の子ども数を持つため必要なこと
男女別・年代別クロス集計

- 保育所など、子どもを預け、夫婦がともに働き続けられる環境の整備
- 男女間の家事や育児に対する固定的な役割分担意識の解消
- 多様な働き方の導入など、職場における仕事と育児などの両立支援制度の充実
- 研修等による男性の家事や育児などの技術支援
- 女性の継続就労やキャリアアップ支援
- その他



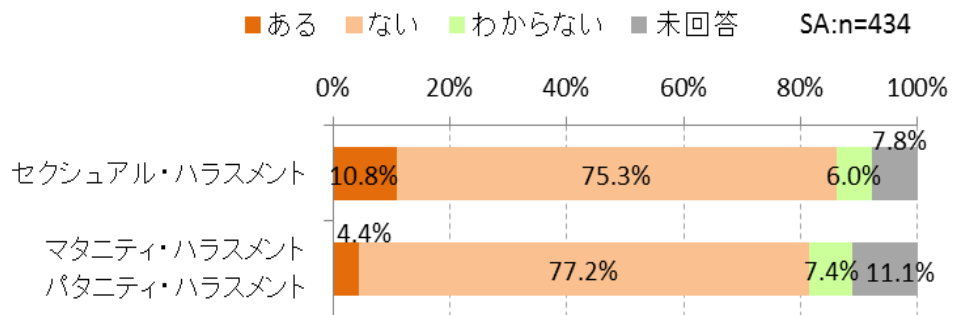
この回答を男女別・年代別に見てみると、「男女間の家事や育児に対する固定的な役割分担意識の解消」と回答される方は、男性より女性の方が若干上回りました。

また、他の年代と比べ、70歳代において「研修等による男性の家事や育児などの技術支援」と回答される方が多くなりました。

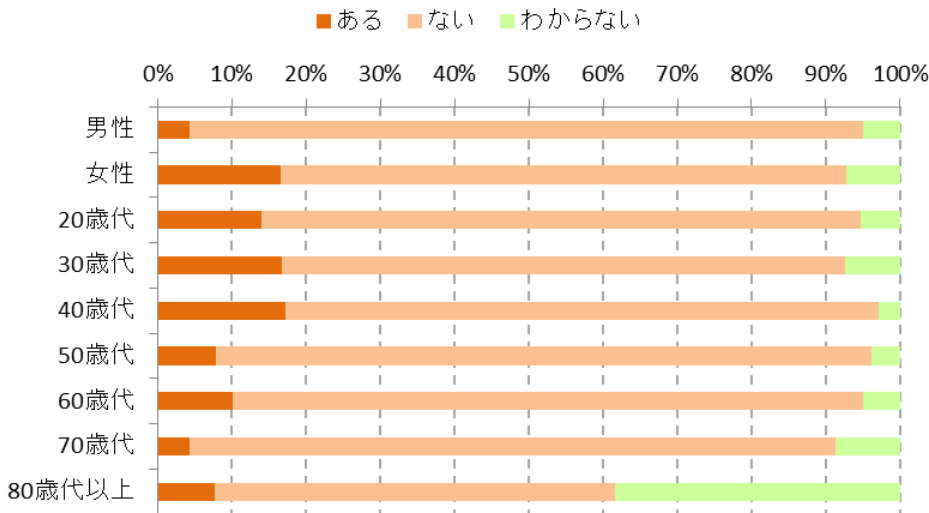
■人権について

問 15. セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）、マタニティ・ハラスメント（マタハラ）またはパタニティ・ハラスメント（パタハラ）を受けたことはありますか。

セクハラ⁽³⁾、マタハラ⁽⁴⁾またはパタハラ⁽⁵⁾被害の有無についてたずねたところ、セクハラに関しては10.8%、マタハラ（パタハラ）に関しては4.4%の方が「ある」と回答される結果となりました。

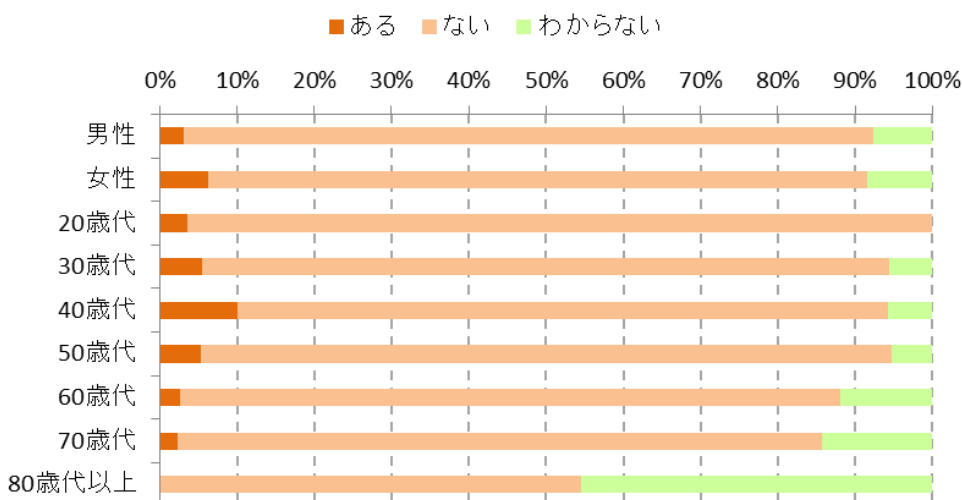


セクシュアル・ハラスメントの被害の有無について
男女別・年代別クロス集計



この回答を男女別・年代別に見てみると、セクハラ、マタハラまたはパタハラの被害の有無については、「ある」と回答される方は男性より女性に多くなりました。

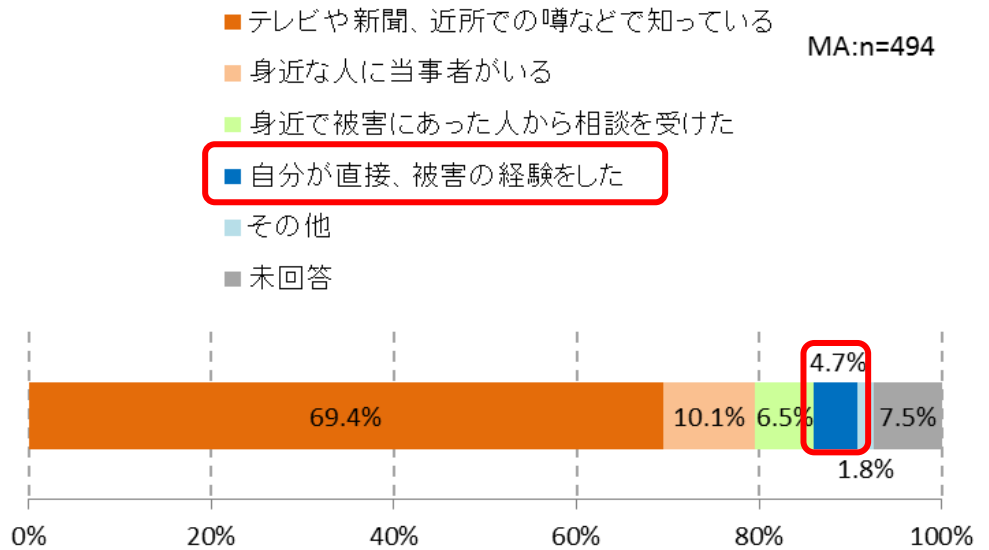
マタニティ(パタニティ)・ハラスメントの被害の有無について
男女別・年代別クロス集計



また、どちらにおいても「ある」と回答されるのは40歳代が一番多く、セクハラに関しては次いで30歳代、20歳代と続き、マタハラまたはパタハラに関しては次いで40歳代、50歳代と続きました。

問 16. あなたは夫婦間（事実婚含む）や恋人の間での、DV（ドメスティック・バイオレンス）について見聞きしたことがありますか。

DVについてたずねたところ、「テレビや新聞、近所での噂などで知っている」と回答される方が69.4%と一番多く、次いで「身近な人に当事者がいる」が10.1%と続きました。また、「自分が直接、被害の経験をした」と回答される方は4.7%という結果になりました。

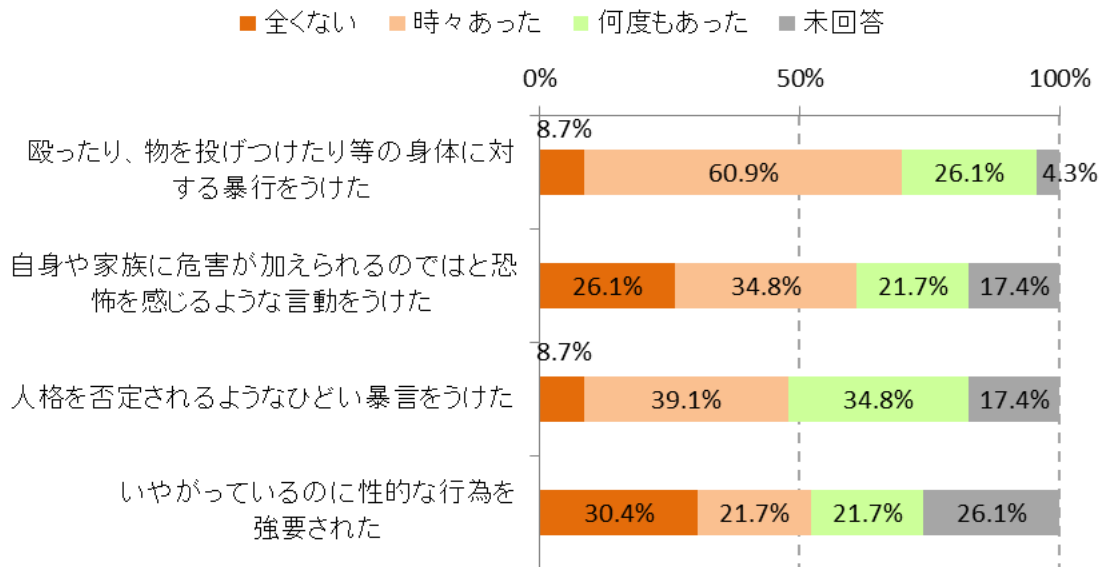


その他の意見

- ・自分がしている
- ・身近に夫は家にひきこもり仕事もせず妻に文句のみ
- ・実父からの暴力を受けた（15歳位まで）、母に暴力をふるっていた父親を見ていた

「自分が直接、被害の経験をした」方のみ回答
DVの被害内容について

SA:n=23

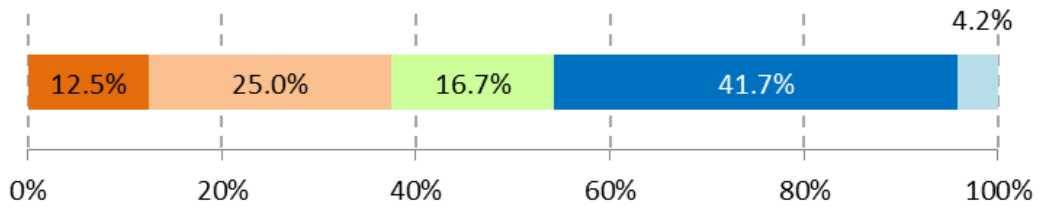


先ほどの質問で「自分が直接、被害の経験をした」と回答された方のみを対象に、被害内容についてたずねたところ、「殴ったり、物を投げつけたり等の身体に対する暴行」が87.0%（時々あった：60.9%、何度もあった：26.1%）と一番多く、次いで「人格を否定されるようなひどい暴言」が74.8%（時々あった：39.1%、何度もあった：34.8%）と続きました。

「自分が直接、被害の経験をした」方のみ回答
DVの被害状況について

MA:n=24

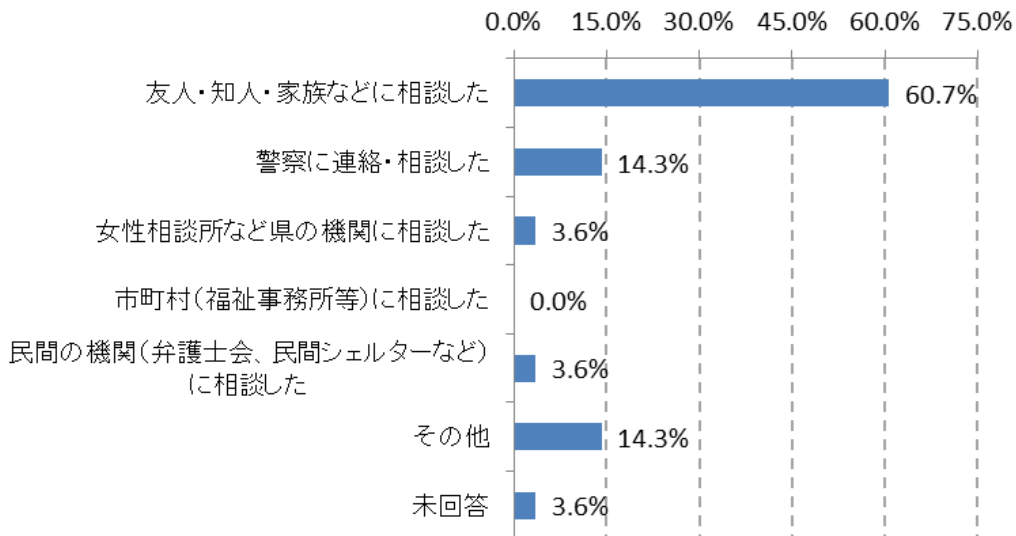
- ケガをして医師の治療を受けた
- ケガをして医師の治療が必要となる程度だったが、治療は受けなかった
- ケガをしたが、医師の治療が必要とされない程度だった
- ケガはしなかった
- 未回答



引き続き、「自分が直接、被害の経験をした」と回答された方のみを対象に、被害状況についてたずねたところ、「ケガはしなかった」が41.7%と一番多く、次いで「ケガをして医師の治療が必要となる程度だったが、治療は受けなかった」が25.0%と続きました。

「自分が直接、被害の経験をした」方のみ回答
DV被害の相談について

MA:n=28



その他の意見

- ・ 誰にも相談できなかった
- ・ シナイ
- ・ 自分の事なので自分で解決
- ・ 電話で相談をした
- ・ (加害者が) 実父なので母とかばい合い泣き寝入りして我慢していた

続いて、被害の相談状況についてたずねたところ、「友人・知人・家族などに相談した」と回答される方が60.7%と一番多く、次いで「警察に連絡・相談した」と「その他」が14.3%と続きました。一方、「市町村(福祉事務所等)に相談した」と回答される方はいませんでした。

■自由意見

問 17. 本調査のテーマについて他にご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

※本調査のテーマについてのご意見のみ掲載させていただいております。

- 質問の文自体から既に男女間の差別をうかがう事ができた。〔上谷地域・30歳代・男性〕
- 若い子育て世代への質問が多いように思われる。〔上谷地域・50歳代・女性〕
- 東京にこれだけ近い特性があるのに、何も成長戦略が打てない都留市に無能を感じる。〔上谷地域・50歳代・男性〕
- 夫婦の家庭には、このアンケート用紙を2通用紙の方がいいのではないのでしょうか。〔上谷地域・50歳代・男性〕
- 男女共同参画社会の主旨も理解は出来ませんが、やはり子供たちの健全育成を優先してほしい。長い人生の中で育児を通じ子供が成長するまでの期間はわずかです。仕事と家庭の両立は現実として大変です。私たちの年齢ですと子育てをしっかりとしてほしいと思います。〔下谷地域・60歳代・女性〕
- 意識調査により、表面に出ていないことがわかれば対応ができるのではないのでしょうか。期待しています。〔上谷地域・60歳代・女性〕
- 現在仕事をしている人、子育て中の人を対象に質問がされており、退職して家にいる者については答えにくい、選択の仕様がないうアンケートでした。〔上谷地域・60歳代・女性〕
- 問 16 からの設問には返事が書けません。70歳以上です。〔上谷地域・70歳代・男性〕
- 結婚、出産、子育て、教育にしても、家族の経済バランスが維持できなければ崩れてしまう。今更ではないが家族のボス（御祖父さん、お父さん）が堅実でなければならない時と思う。〔上谷地域・70歳代・男性〕
- ご苦労様です。
 1. 職場より求人はあってもアンマッチが多いようです。
 2. 上記の理由により結婚が未だ進まず従って少子化は進みます。
 3. 当市内にも空家が増えているようです。特に火災が心配です。〔上谷地域・80歳代以上・男性〕
- 男女共同参画社会の実現は必要だと思うが、そのためには男女共同参画に対する社会の理解、つまり企業や家庭の理解、行政の福祉の充実等様々な環境の整備が必要と思う。〔上谷地域・80歳代以上・男性〕

- 若者にお聞きください。〔上谷地域・80歳代以上・男性〕
- 私は、夫は外で働き妻は家庭を守るべきに賛成していますが、人間は基本的に自然界の生物と同じであると思います。知恵を深め科学を高めています、男性と女性との愛によって、幸福な家庭生活が営まれ、この集まりが社会を構築していると思います。男女共同参画については、その性の相違を十分理解すべきと思っています。〔上谷地域・80歳代以上・男性〕
- 男女の雇用機会均等法の浸透と、人口減少の逆相関性を感じます。人口減少の要因に晩婚が挙げられると思います。統計的に出産した子供が多い方が結婚した年齢を調査し、その出産適齢期に既婚している方に奨励金を出す等、発想を変えて取り組まれた方がいいと思います。〔中谷地域・40歳代・男性〕
- 結婚していないのであまり意味がないアンケートだと思います。〔中谷地域・40歳代・男性〕
- 調査の対象が20歳以上とありますが、内容的に20～65歳等と絞った方が良いと思う。もし60～80歳代の人には質問の形を変えた方が答えやすい（経験で答えられるように）。男女共同参画社会も大切だが、その前に子供は女性しか産めない・・ある時期は女性が子供を産み二人で育てる。このことをもっと意識して男性は女性を大事にし、女性は女性にしか出来ない大切なことを安心してできるようにする環境を作らねばいけないと思う・・家事は、男女向いている方が協力しながらするのが良いと思う。男性、女性と決める必要もないと思う。〔中谷地域・60歳代・女性〕
- もっと主婦が働きやすい社会にしてほしい。税金上げるのもいいけど、議員さん（ニュースなどを見ていると無駄遣いしている気がする）の給料下げて、国のために使ってほしい。〔下谷地域・20歳代・女性〕
- 若い世代が都留で働き、結婚し子育てできる環境作りをたくさんの知恵を出し合っていけたらいいですね。企業誘致や雇用の確保に努め、若い人が結婚して定着できる都留市であってほしいです。市議員選挙が終わり、住みやすい都留市のために働いてくれる議員は本当にいるのか？子育てを終えた女性の皆様のパワーを活用し、若い子育てママにアドバイスできる場所を作ってほしいです。少ない人口だからこそできる可能性を生かす努力が大切だと思います。〔下谷地域・50歳代・男性〕
- 調査票を送るのは20代、30代をターゲットにして調べた方がいいのではないかと60歳過ぎの人には協力はちょっと無理で対象外ではと思います。〔下谷地域・60歳代・女性〕

- 大きい規模の女性も多い所でパートで働いています。子育て先輩も沢山いますが、子供の体調を理由に休むことは、やはり気を遣い連続して休むのは難しいです。子供を学童にも入れています。天候などで休校の場合も預け先がなく、危険な中で子供を留守番させています。不安ですが、どうにもできません。学童も役員になると仕事を休んで、子供との時間を削ってまでして、役員の仕事をしています。どうにもなりません。何とかしてくれるのですか？正社員は夜勤もあり、保育所（託児所）は小学生未満までです。小1になったからと一人で留守番できますか？できませんよ。働きにくいですよ。こんなに頑張ってるのに。働いても税金取られてほとんどない。何でこんなに税金ばかり取られるんですか。こんなに働いて、定時でも帰れないこと多いのにボーナスも出ない。（同じ仕事のパートで郡内で出ないのはここだけです）生活保護の方が犬を飼ったり、お酒を飲んだりパチンコ行ったり、スマホ持ったり。母子家庭の方が高級車に乗ったり、納得いかないことばかり。収入があれば子供との時間にあてたいです。働きにくい環境です、まだまだ都留市。3人目、4人目ほしいけど、金銭的に無理です。アンケート、ちゃんと役立ててください。とって終わりにしないでください。〔三吉地域・30歳代・女性〕
- 保育園に入れても子どもが病気などで仕事を休んだり、早退することが多くなると結局、会社に居づらくなったり仕事がまわらなくなって退職を選択せざるをえなくなります。祖父母に頼れない家庭もあるので病児保育を充実させてほしいです。〔三吉地域・30歳代・女性〕
- 私は現在70歳ですがパート勤務をしております。朝6時30分には自宅を出て、帰りは夜8時過ぎになります。朝から夜まで約14時間家にいません。この時間の他に家事をやれというのですか？また、妻は家にいますが、私は家事は仕事と思っています。収入を得るだけが仕事と思っていません。共同参画に対するあなた方の考えを改めた方が良いと思います。〔三吉地域・70歳代・男性〕
- 子供は両親どちらかの愛情が欠けてもきちんと育たないので子供のいる家庭には、収入も必要だが、何よりも家族の時間、コミュニケーションを十分に取れるワークスタイル、会社側の理解が欲しいと子供のいる家庭を見てて思います。〔開地地域・20歳代・女性〕
- 私の場合、仕事が身体的に出来ない場合、今と昔とは、考え方が違う。〔開地地域・40歳代・男性〕
- いちいち言葉が難しくわかりにくい。〔開地地域・60歳代・女性〕
- そもそも日本が仕事オンリーで悪いと思う。日本人は仕事が好き←気持ち悪い。仕事をするために産まれたわけではないし、海外を見習った方がよいと思う。〔東桂地域・20歳代・男性〕
- 社会は女性に働く事を望み、専業主婦の扶養手当130万などをなくすことを言いますが、家に年寄りが出てその介護を誰がするのですか。矛盾だらけです。〔東桂地域・20歳代・女性〕

- 男女共同参画では、行政では現在どのような事を行っているのか全くわかりません。何をしているのか具体的に市民にわかるようにした方が良いと思います。〔東桂地域・20歳代・女性〕
- 今の学校の教員は塾があるからと言い、本来学校での指導で十分な勉強もある意味では先生方が塾に委ねるようなことも聞きます。もう少し親にも負担が（塾通いの月謝）かからないように教員のレベルも上げてほしいと思います。〔東桂地域・30歳代・男性〕
- 勉強不足ですみません。市で作成していた計画を拝見したことがないので、具体的に行政に何が求められるのか？何を求めているのかわかりませんでした。女性の社会進出は必要だと思うので、子育てや介護サービスの充実は、地域（都留市）に応じたものを積極的に取り組んでいただきたいです。首都圏に働きに行く方に補助金を！という取り組みがありますが、ワーク・ライフ・バランスの視点では、もちろんプラスになることもあるけれど（プライベートな時間を都留で過ごせれば、ゆったり幸せですよ）、企業との連携などしないと、疲れてしまうのでは？と考えました。〔東桂地域・30歳代・女性〕
- 女性の雇用拡大につながるよう、行政も努力してほしいと思います。〔東桂地域・40歳代・女性〕
- 老人のための施設を入りやすく、また一人暮らしの年金では生活保護を受けている若い親子たちより少なく大変です。老人の事を知る事も必要だと思います。〔東桂地域・70歳代・女性〕
- 私も83歳になりましたので、こういう質問は無理があります。これからは、こういう問題はださなくてください。〔東桂地域・80歳代以上・男性〕
- 自分は80才になりました、一日一日を元気にすごせる様にしています。時代の変わりが激しすぎて自分なりに考えて生きる事だと思っております。80才です、昔を思い出すと涙がでます。〔東桂地域・80歳代以上・女性〕
- 子供が外で遊ぶ公園が都留市には少ないと思います。子供が安心して安全に遊ぶ所が地域に一つあれば私たち親も安心です。いろいろな事件があり、事故もあるので、遊ぶ場所一つでも親はとても心配です。友達の家にあがりこんでゲームも一つの遊び方かもしれませんが、太陽の下を元気に遊んでもらいたいです。〔宝地域・40歳代・女性〕
- 子育て支援はもちろん大切ですが、介護支援への個人の理解があまりないと感じます。〔宝地域・50歳代・女性〕
- 子供を安心して生めることができる社会になったらいいと思っています。〔宝地域・60歳代・女性〕

- このアンケートをただ集めているだけでなく、この内容をもとに子育て、職場が現実良くなる事を望みます。〔禾生地域・30歳代・女性〕
- 職場であっても地域であっても、まだこの日本は男性社会が強く感じられます。確かに男性にはかなわない所もあるが、職場では少しずつではあるが、女性の社会が少しみえつつあるが、やはり現実、職場は男の世界が強いと感じてしまう。〔禾生地域・30歳代・女性〕
- 男女共同参画は必要であると思います。男性が家事をすること、良いことであると思います。ただ、現状行政と民との温度差を感じます。ですが、今すぐは厳しいかもしれませんが、理解できる子供たちが大人になってそう思える人が多くなれば、自ずと実現されると思います。悪しき概念を払拭できる子供たちの教育が大事であると思います。この様な調査もやり続けることが大事であると思います。どうか頑張ってください。〔禾生地域・50歳代・男性〕
- 男女共同参画が大企業や国家公務員だけで終わらせないよう、中小企業の事業主の意識を上げてほしい、人材育成の職場づくり、子育て介護の両立ができるように近場への職場を考えてください。目標を持って働いている女性は輝いています。子どもたちの目標にもなるでしょう。そんな地域をお願いします。〔禾生地域・60歳代・女性〕
- 子育て中の家庭と私共のような子どもを社会人にした家庭とでは比較するべきではないと思います。〔禾生地域・70歳代・女性〕
- 女性が仕事を持っている場合、出産、子育て（3～4歳位まで）は家庭に入って親子の共通の時間を共有してほしい。少子化をストップするには、必要な時間だと思います。兄弟姉妹がいない子どもは、さみしいのでは。〔禾生地域・70歳代・女性〕
- 問3は一人暮らし、無職なので一日中家事といえば家事、何もしないといえば何もなし、なので時間ははかれません。〔禾生地域・70歳代・女性〕
- 自由で、とても良い社会になっていますが、よく見ると色々なひずみが出てきていると思う。働けばお金が取れる時代、心の暖かさがなくなり、近所も遠い人。何年前かは、近所も親戚みたい、子供も預けられた。困った事があれば、年上の人に教わる。今、個人情報、便利な時代、不便と、理解できない。世の中あまり男女が同じレベルになると、男の人が家事をやり、女性がキャリアウーマン。子供から見てどう思うか？どう考えても男性は子供を産めないのだから・・・ほどほど、やさしすぎる男性が多くなりすぎるのが心配。〔禾生地域・70歳代・女性〕
- 私の年齢は82歳になりますが、今までの私の思ったことを書きました。〔禾生地域・80歳代以上・女性〕

- 質問が既婚者向けが多く答えづらい。〔盛里地域・20歳代・男性〕
- 官公庁のアルバイトの職員のほとんどが女性だと思う。女性を低賃金で雇用している職場が日本中に存在する限り、男女共同参画の実現は無理。行政のトップの意識改革をしなければ民間事業所へ働きかけることなどできない。女性管理職の数値目標をかかげて、行政が主導で育ててほしい。〔盛里地域・50歳代・男性〕
- 世の中で凶悪犯罪が多く発生しています。子どもたちの心の中に大切に育てられている意識がない。心の中を満足させるために、大人の興味を惹く・意識させるために悪いことをする子どもたちが増えているように思う。母親が働く事はいけないとは言わないけれど、女性目線ではなく、子ども目線に立って、大切なこれからの世代を担う子どもたちを大事に育てる事の方が大事だと思う。一生懸命育てた命は、働いてお金を稼ぐより大きな大きな宝だと思う。それも1つの男女共同参画だと思います。〔盛里地域・50歳代・女性〕
- 意識調査で多くの意見をまとめるには、このような形式になると考えますが、表面であり、今の日本特に私の住む地域などは、わずか数年前に来たのに「そんなことは嫁がするのが当たり前」とか「男がおかってに立つなんてとんでもない」という考えの先人に教育されていた人たちが今の社会の中心人物で街行動（部落の行事）は進行しています。言葉だけでなく意味をよく“しんとう”させる事をことあるたびに発信してほしいと考えます。そして、意味を間違えていることも多いです。男には男、女には女の仕事もあるはずなのです。なんでもかんでも、男と女は同じではないという事柄もあるのです。人間会社より家庭も共通生活です。※はき違えた考えを持つ人も多いようです。何のために、何を基本とするか、人間として人間を生きることが何であるか考える必要があると想うのです。個人の特性を持って良い社会、住み良い生活、向上する心は、人間個人の意識の内に本当の意味を持つことを考えます。〔盛里地域・60歳代・女性〕
- （DVの被害について）警察、弁護士に相談し、裁判までしたが、女性が弱い立場にあるとのことで、まったく意見は通らずでした。自分の周りでも泣き寝入りしかない状態の人が多々います。〔不明〕
- 人それぞれ、環境も生活もちがうので（考え方も）いろいろ難しいと思いますが、男女関係なく、より良い環境であつたらと思います。〔不明〕
- 過疎化が進む中、子を育てる若者に重きを置き、対策を練ることは重要だと思います。しかし、若者が地元を離れないような取組み。リニア開通間近であるのに実験線しかない。駅も設置しない。疑問です。リニアで就職し働ける人もいると思うのに……。共働きできる職場、仕事と家庭を両立したいと思っても、その職場は自宅の近くにあるのでしょうか？〔不明〕

- 子育てや介護に苦勞しているものにとって、それを味わったことのないもしくは無関心な人からの視線がいちばん厳しいように思います。社会全体でもっとしっかり取り組んでほしいと願います。〔 不明 〕

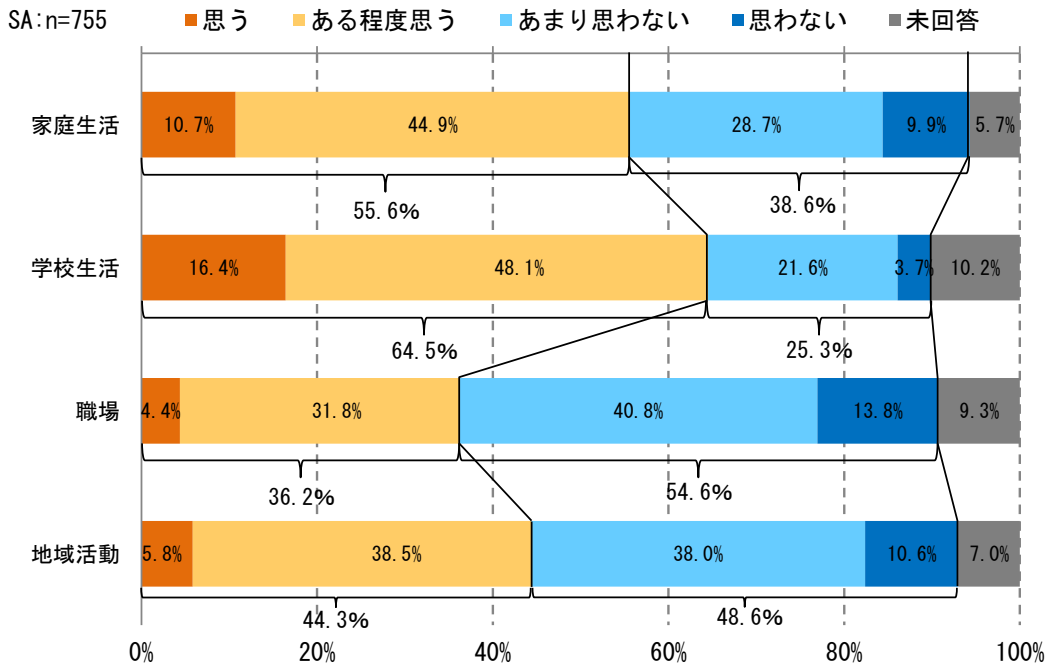
- 私（80歳）妻（82歳）、息子（47歳）は独身で東京に就職しております。現在夫婦ともに介護2の認定を受け、買い物から掃除までヘルパーさんの助力で生活しております。アンケートのほとんどの項目に該当しないことをお詫びします。〔 不明 〕

参考資料

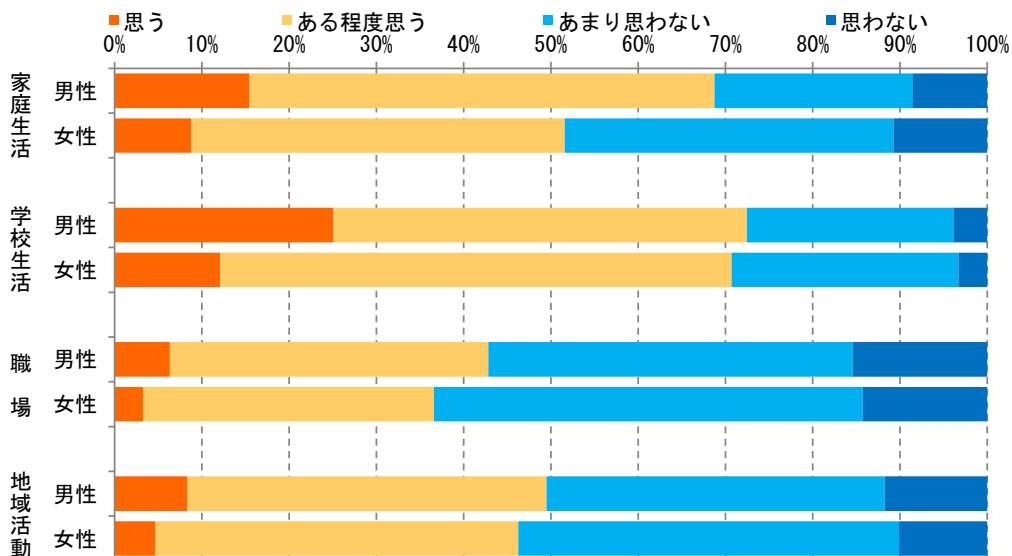
～第6次都留市長期総合計画策定のための市民意識調査結果報告書より～

平成26年10月に第6次都留市長期総合計画策定のために実施された市民意識調査の結果報告書より、男女共同参画についての結果報告のみ抜粋します。

問A. 次のような場面で、男女平等は実現されていると思いますか

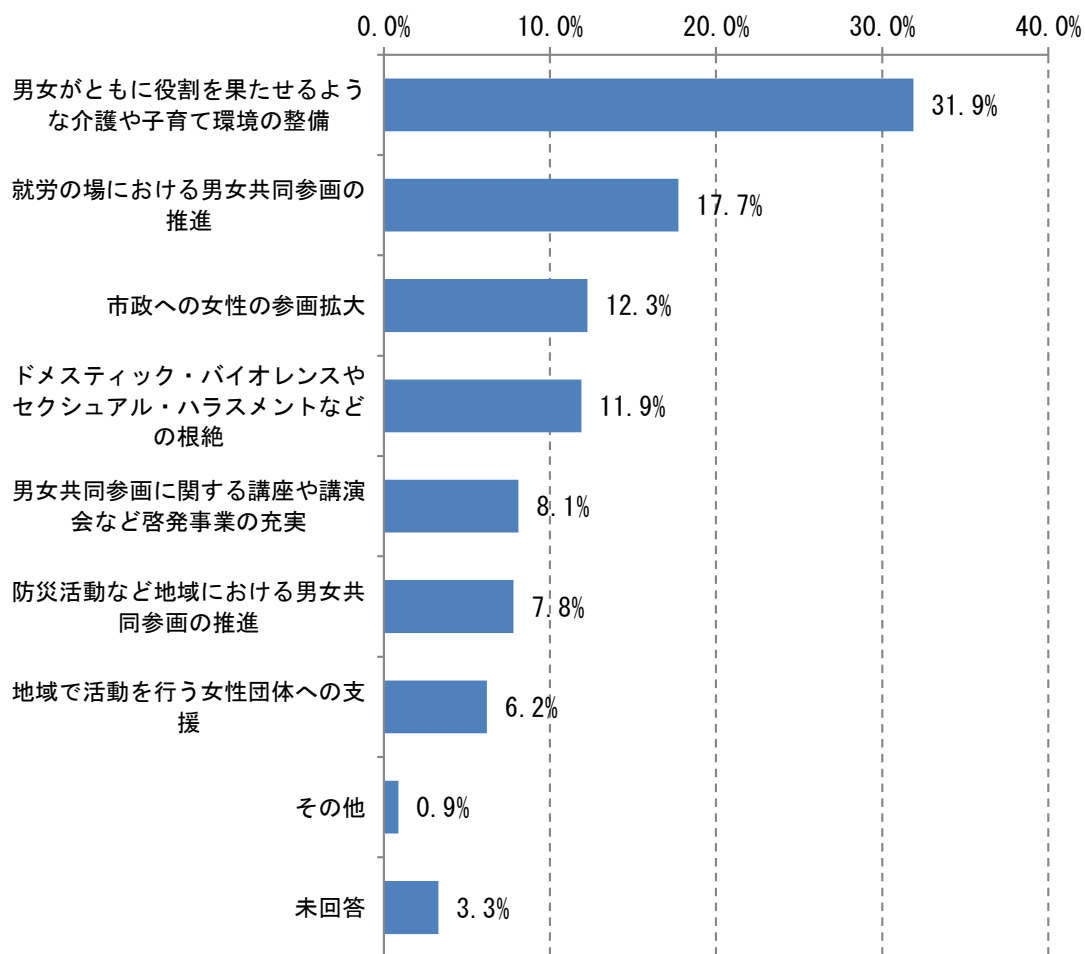


日常生活における様々な場面で、男女平等が実現されていると思うかをたずねたところ、「思う」、「ある程度思う」と答えた方が一番多くなったのは、「学校生活」(64.5%)で、一番少なくなったのは「職場」(36.2%)でした。また、「家庭生活」においては、「思う」、「ある程度思う」の合計が55.6%となり、「思わない」「あまり思わない」の合計38.6%を上回る結果となり、家庭における男女共同参画が根付き始めていることが考えられます。



上記の設問を、男女別でクロス集計しました。結果として、全ての項目において男性の「思う」という割合が、女性より高くなりました。男性と女性の、「男女平等」という考え方に対する差異がうかがえる結果となりました。

問B. 男女共同参画社会を実現していくために、どのようなことを望みますか。



MA:n=1,371

男女共同参画社会の実現のために必要なことを聞いたところ、「男女がともに役割を果たせるような介護や子育て環境の整備」が 31.9%、「就労の場における男女共同参画の推進」が 17.7%、「市政への女性の参画の拡大」が 12.3%となりました。